

# 2025 年度研究会募集要項

研究会Aを新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会Aを継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

<b>A</b>		学習支援システム応募用授業コード			AA0433	
テーマ	健康に過ごすための体づくり、心づくり					
担当者	朝比奈 茂	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	月曜日 4限	
関連するコース	全てのコースが対象					
授業の到達目標			授業のテーマ			
<ol style="list-style-type: none"> <li>補完代替医療(現代西洋医学以外の医療)およびホリスティックの健康観について、概説し実践できる。</li> <li>自らの心身について、客観的及び主観的指標を用いて、分析・評価できる。</li> <li>各自で選んだテーマを調査・分析・発表できる。</li> <li>他人の発表に対して、自分の考え方・意見を述べることができる。</li> </ol>			<ol style="list-style-type: none"> <li>東洋医学の健康観</li> <li>ホリスティックな健康観</li> <li>セルフメディケーションとは</li> <li>食事、運動、休養の重要性</li> <li>上記に関連する話題</li> </ol> ※ホリスティックとは、全体、関連、つながり、バランスといった語句を包含する考え方			
授業の進め方						
<ul style="list-style-type: none"> <li>毎回、授業のはじめに与えられたテーマに沿って、レポート記述、グループディスカッション、その後発表する。</li> <li>テーマに関する最新情報を提示し、それに対する個人の意見を述べる。</li> <li>各自が興味ある「健康に関する話題」について、調査・分析し、発表する。発表した内容について、さらに調査を深め、自らの主張を論じたレポートを各学期の最終講義時に提出する。</li> <li>各期に若干名の社会人ゲストスピーカーを招聘して、それぞれの業界の情報を話して頂く。</li> </ul>						
学生の皆さんへのメッセージ						
<p>本研究会は、前提として単なる知識の伝達を行う講義科目ではありません。ディスカッションを中心として講義を展開していきます。従って学生皆さんの積極的な態度が求められます。近年、健康や医療に関する情報が複雑かつ大量に出回っております。多くの方は、インターネットなどを通じて、瞬時に情報が手に入るようになりました。しかし、入手した情報のうち何が正しいか、また何を選択してよいか迷ってしまいます。今後、このような社会情勢は益々多様化、複雑化、高速化すると予想されます。本研究会を修了することで、健康及びセルフメディケーションに対する意識が高まり、正確に物事を選択し、決定できる学生になることを期待しております。</p>						
授業外で行うべき学習活動(準備学習等)			成績評価基準			
各自で決めたテーマについて、図書資料、WEB資料、聞き取りなどを用いて、調査・分析し、発表に備える。また、参考図書を各自講読する。			授業に対する積極性、課題調査・分析・発表、レポート執筆など、総合的に判断して評価する。			
募集にあたってのお知らせ(選抜方法・その他)						
募集対象学年	新2年生、新3年生					
<p>募集は、新2年生8名(男子4名、女子4名)程度とし、新3年生は若干名とする。 選考は、書類選考及び対面による面接で決定する。</p>						
オープンゼミ・説明会						
オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミの情報詳細は、学習支援システムに仮登録して確認してください 研究会個別相談会は行いません。オープンゼミで個別相談を承ります。				
説明会開催有無	無					
備考						
本研究会は、年に2回(夏季休暇、春季休暇)、校外で合宿を行っております。どちらか一つは必ず参加できる方を募集の条件といたします。						

# 2025 年度研究会募集要項

研究会Aを新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会Aを継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A		学習支援システム応募用授業コード			AA0434	
テーマ	美術・デザインと持続可能な社会					
担当者	板橋美也	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	木曜日 3限	
関連するコース	グローバル・サステイナビリティコース 人間文化コース					
授業の到達目標			授業のテーマ			
美術・デザイン・ファッション・建築等が社会の様々な課題をどのように反映し、その課題にどのように向き合ってきたのかを理解すること。そして、それを踏まえて、現代社会の課題と、それに対して何がなされているのか・なされるべきかについて、自身の考えを深めて論理的に説明できるようになること。クラスでの発表とその準備作業を通して、資料収集・分析能力や調査内容の概要を報告する能力を養うこと。			美術・デザインと持続可能な社会			
授業の進め方						
(1) 指定したテキストやテーマに関する発表やディスカッションを通して、美術・デザイン・ファッション・建築等が社会の様々な課題をどのように反映し、その課題にどのように向き合ってきたのか、そしてそれが現在の私達の生活や社会にどのように関わっているのかを考えます。 (2) 発表担当者が各自の関心にもとづいて調べた内容の発表をし、それについてゼミ生全員でディスカッションをします。 * (1) (2)いずれの場合も、ゼミ生それぞれが自分の考えや疑問点を積極的に発言することが求められます。 (3) 長期休暇中など授業日以外に、美術館や建築物を見学に行きます。						
学生の皆さんへのメッセージ						
美術・デザイン・ファッション・建築は、ただ「美しさ」や「センスの良さ」を競うだけのものではなく、人々の生活や社会と分かちがたく結びつき、近代化・産業化・消費文化の功罪、グローバル化の中での異文化受容、ジェンダーなどにまつわる、その時々々の様々な課題を反映してきました。持続可能な社会の実現のために、美術・デザイン・ファッション・建築等を通してどのような試みがなされてきたのか、そして現在されているのか、一緒に探求しましょう。また、何らかの芸術についての知識を持ち、楽しめるようになることは、その後の人生をより豊かにしてくれます。そのような楽しみを増やせると良いですね。						
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）			成績評価基準			
文献購読の際には、全員それぞれの週に指定されたテキストの範囲をよく読んでおき、授業中のディスカッションで自分の考えを述べる準備をしておいてください。また、各自の関心のあるテーマについての研究発表に際しては、主体的に調査を行います。			研究会への貢献度（発表の内容、授業中の発言、参加態度など）・レポートから総合的に判断します			
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）						
募集対象学年	新2年生					
学習支援システムの「課題」に提出された志望調査票に書かれた志望理由の内容によって一次選抜を行い、その後2次選抜の面接を行います。						
オープンゼミ・説明会						
オープンゼミ開催有無	有	ゼミの授業見学希望の場合は、板橋までメールを送ってください。 メールアドレスは Hoppii に記載します。				
説明会開催有無	有	説明会の詳細も Hoppii でお知らせします。				
備考						

# 2025 年度研究会募集要項

研究会Aを新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会Aを継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A		学習支援システム応募用授業コード			AA0435	
テーマ	国際平和の追求					
担当者	岡松 暁子	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	火曜日 5限	
関連するコース	グローバル・サステイナビリティコース					
授業の到達目標			授業のテーマ			
1. 自分で設定したテーマについて、徹底的に調べ、研究し、発表し、議論することで、 <b>思考力、調査能力、問題解決能力</b> を身につける。 2. 卒業時には、研究会修了論文を提出する。			国際社会で生じた、あるいは生じている様々な問題を素材として、 <b>国際平和</b> （国際社会の中の日本、国際紛争の解決、環境問題の改善、人権の保障、よりよい社会の実現）について考える。			
授業の進め方						
専門文献講読、事例研究、個人の研究報告、時事問題に関する討論、ディベート等を行う。 学生による自主的な運営を期待する。適宜、サブゼミを行う（読書会、映画鑑賞会等）。						
学生の皆さんへのメッセージ						
本研究会は2025年度に19期生を迎えます。これまで以上に、 <b>ゼミ生間の縦・横の連携</b> を強化し、お互いに啓発し合い、学生生活において、 <b>これだけは一生懸命にやっさと自信を持って言えるもの</b> を持てるようなゼミになればと思っております。 <b>高い目標を掲げ、妥協することなく挑戦する向上心と、何事にも積極的に取り組む姿勢を持った学生</b> の参加をお待ちいたしております。 少し背伸びをしましょう。質の高いゼミを目指します。 合宿、懇親会等でのOB・OGとの交流も盛んであるため、 <b>卒業生と現役生との結束</b> も強いゼミです。卒業後も縦横のつながりが長く続いているようです。						
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）			成績評価基準			
・毎回の予習、報告準備 ・サブゼミ（読書会、映画鑑賞会等） ・研究会修了論文発表会、OBOG会 ・夏合宿 ・校外授業（過去の研修先：東京税関、つくば宇宙センター、外務省外交史料館、磯子火力発電所、防衛省、海上保安資料館横浜館、成田空港、米軍基地、東京証券取引所、海洋研究開発機構、等）			報告、討論への参加、レポート、ゼミへの貢献度			
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）						
募集対象学年	新2年生					
選抜方法：面接（教員と現ゼミ生による） *詳細は学習支援システムに仮登録をして確認してください。						
オープンゼミ・説明会						
オープンゼミ開催有無	有	1. オープンゼミ:10/22、11/5、11/12の5限 場所:BT1002 2. 説明会：スカイホールでの全体説明会に参加。 オープンゼミの前後（BT1002）にもゼミ生による相談会をいたしますので、希望者はメールをしてください。（okamatsu@hosei.ac.jp） *詳細は学習支援システムに仮登録をして確認してください。				
説明会開催有無	有					
備考						
歓送迎会、講演会、懇親会等、不定期に様々な企画有り。						

## 2025 年度研究会募集要項

研究会Aを新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会Aを継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A		学習支援システム応募用授業コード			AA0436	
テーマ	(海・島の)文化的景観とエコツーリズム					
担当者	梶 裕史	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	金曜日 5限	
関連するコース	人間文化コース または ローカル・サステイナビリティコース					
授業の到達目標			授業のテーマ			
(2年次)「環境表象論ⅠⅡ」の授業や先輩の個人研究発表から学ぶことを通じて、自らも個人研究訪問を企画・実施し、「環境表象論」の授業内容を実感的に理解できること			日本型エコツーリズムの素材としての(海・島の)「文化的景観」、伝統文化資産－(環境表象論ⅠⅡのシラバスに示された内容の多くがテーマ例になります)			
授業の進め方						
毎回、教室では個人研究発表およびその後のグループワークを基本とします。 ・2年次と4年次は、各自が個人研究テーマを決めて、一人旅またはグループで、何処かに宿泊型の(日帰り訪問の場合は年に何度もリピートする)フィールドワークの旅を企画・実施します。 ・3年次は、夏休みに約1週間の沖縄県八重山諸島ゼミ合宿に必ず参加してもらいます(費用 約11万～12万)。3年次はこのために、予備学習&事後学習用として、金曜4限Bゼミ(←一般募集はせず、ゼミ3年生専用)も履修してもらいます。						
学生の皆さんへのメッセージ						
・「環境表象論ⅠⅡ」という授業と密接に関わるゼミです。現1年生は、「環境表象論Ⅰ」かILAC科目「文学と社会LA」を履修し(または環境表象論Ⅱか文学と社会LBを履修中で)、授業内容に強い興味関心を持った方、または募集用 hoppii 掲載の教材サンプルに目を通して強く惹かれた方が好適です。 上記に加えて、海が大好きで、「島の伝統的な文化」と聞いて強く心が惹かれる人、文学・音楽・絵画など広い意味のアートが好きなお人、日本の伝統文化・民俗(民間伝承)に深い関心がある人、などはこのゼミと相性がよいと思います。 ・環境表象論ⅠⅡをまだ履修していない人は、参加1年目にならず履修してもらいます。 ・ゼミの後の時間に、サブゼミや個別指導などを行う場合があります。また交流・親睦を深める機会を重視して進めていきたいと考えていますので、ゼミ活動への積極的な参加を期待しています。						
授業外で行うべき学習活動(準備学習等)			成績評価基準			
各自の個人研究の準備(学習、企画)			学年末論文、授業中の発言、ゼミへの貢献度			
募集にあたってのお知らせ(選抜方法・その他)						
募集対象学年	新2年生 12名程度、新3年生 若干名。現2年生の条件は下記。					
現2年生は、今までに環境表象論ⅠかⅡを履修済み(または現在Ⅱを履修中)の方のみとします。						
オープンゼミ・説明会						
オープンゼミ開催有無	(有)	オープンゼミは 11/8の5限、0605 教室にて実施予定です。情報詳細は学習支援システムに仮登録して確認してください。説明会は特に開きませんが、10/24研究会個別相談会(@BT26階スカイホール)には参加します。				
説明会開催有無	(無)	質問がある場合、気軽にメールで尋ねてください。→ <a href="mailto:kaji@hosei.ac.jp">kaji@hosei.ac.jp</a>				
備考						



# 2025 年度研究会募集要項

研究会Aを新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会Aを継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

<b>A</b>		学習支援システム応募用授業コード			<b>AA0437</b>	
<b>テーマ</b>	企業/地域の持続的成長のためのビジネスデザイン					
<b>担当者</b>	金藤 正直	<b>開講期</b>	通年	※変更可能性有 <b>曜日時限</b>	金曜日 4 限	
<b>関連するコース</b>	サステイナブル経済・経営コース			ローカル・サステイナビリティコース		
<b>授業の到達目標</b>				<b>授業のテーマ</b>		
経営学、会計学、商学の視点から、企業または地域の持続的成長を実現するためのビジネスやその経営手法を論理的に考えながら明らかにしつつ、その結果をわかりやすく、丁寧に説明していく能力を習得することを目標とします。				研究対象となる国内・外の企業または地域を主体としたビジネスの現状を分析し、それを通じて「持続的成長とは何か」、「持続的成長のために必要とされるビジネスや経営手法は何か」について検討していきます。		
<b>授業の進め方</b>						
<p>①現在活動中のチームのうち<b>1チーム</b>に所属します。</p> <p>1) 地域ビジネスチーム 2) 商品開発チーム 3) サービスマネジメントチーム 4) アパレルチーム 5) ヘルスケアチーム 6) グローバルビジネスチーム 7) エンターテインメントビジネスチーム 8) エネルギー・マネジメントチーム 9) フードロスチーム 10) 中小企業チーム 11) 人材開発・育成チーム</p> <p>※来年度は「<b>経済・政策分析チーム（仮称）</b>」を新たに設置する予定です。国・自治体の政策が企業の取り組みにどのような影響を及ぼしているのか、また、企業の取り組みが国・自治体の政策にどのような影響を及ぼしているかを分析するチームです。</p> <p>②所属チームで<b>研究計画書</b>を作成していきます。この計画書をもとに行われる文献調査やアンケート・ヒアリング調査により、<b>研究対象となる企業または地域のビジネスの現状と課題</b>を明らかにしつつ、その課題への<b>解決策</b>も検討していきます。</p> <p>③研究・調査の進捗状況や成果は、<b>異なるチームとの意見交換</b>や<b>中間報告・最終報告</b>を行うとともに、<b>研究・調査レポート</b>または<b>研究会修了論文</b>としても作成し、公表していきます。</p> <p>※ゼミメンバーのさらなるレベルアップのために、大学院生メンバーや事業関係者に対するプレゼンテーションを始め、学会、インゼミ、企業や自治体イベント、エコプロなどへの参加、合宿（特別ゼミ）なども予定しています。</p>						
<b>学生の皆さんへのメッセージ</b>						
経営学、会計学、商学に興味があり、個人や共同での作業に積極的かつ意欲的に取り組むことができること、他人への気配りができること、最後まで諦めずに責任を持ってやり遂げることができる皆さんと一緒に学ぶことを楽しみにしています。						
<b>授業外で行うべき学習活動（準備学習等）</b>				<b>成績評価基準</b>		
本研究では、経営学、会計学、商学に関するさまざまな文献を活用し、また、研究対象となる企業または地域の方々への調査（現地調査）なども行いながら、研究の視点、方法、内容を検討していきますので、楽しく前向きに、また、計画的に実施してください。				成績は次の <b>4点</b> に基づいて評価します。 ① 討論への参加（発言内容）（20%） ② 報告用配布レジュメの内容（20%） ③ 報告内容（プレゼンテーション能力）（30%） ④ 研究・調査レポート、研究会修了論文（30%）		
<b>募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）</b>						
<b>募集対象学年</b>	新3年生は <b>若干名</b> 、新2年生は <b>20名程度</b> 募集します。					
<b>【選抜方法】</b>						
① 「研究会志望調査票」と「面接試験の内容」をもとに選抜します。						
② 面接試験の日程や可否の結果報告は、 <a href="#">Hoppii</a> とゼミ公式の <a href="#">Instagram</a> で行いますので、各自確認してください。						
<b>【その他】</b>						
① <b>研究・調査レポートおよび研究会修了論文の執筆は必須</b> とします。						
② <b>研究・調査先、国内外の学会、自治体などのイベントでの研究報告や論文投稿</b> も行います。						
<b>オープンゼミ・説明会</b>						
<b>オープンゼミ開催有無</b>	有	オープンゼミ開催日時: 11月8日(金)4時限/11月15日(金)4時限				
<b>説明会開催有無</b>	有	説明会開催日時: 11月8日(金)5時限/11月15日(金)5時限				
<b>備考</b>						
オープンゼミに参加される方は、 <b>場の雰囲気（議論の仕方、報告の仕方・聞き方、質問の仕方、質問への対応など）</b> に注目するだけでなく、議論にも <b>自由に楽しく</b> 参加し、また、各ゼミメンバーに対して <b>遠慮なく提案・質問</b> をしてください。						

Instagram : <https://t.co/tqIH0pq257>

# 2025 年度研究会募集要項

研究会Aを新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会Aを継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A		学習支援システム応募用授業コード			AA0438	
テーマ	テクノロジーとデザインをめぐる理論と実践					
担当者	金光 秀和	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	火曜日 4限	
関連するコース	人間文化コース      ローカル・サステナビリティコース					
授業の到達目標			授業のテーマ			
各自が課題(問い)を設定して活動を進めることによって、①課題発見・分析能力、②課題完遂能力、③論理的思考力、④情報管理能力、⑤情報発信・スキルの涵養を目標とします。また、対話やワークショップの企画・運営によって、⑤コミュニケーション力、⑥スケジュール管理能力、⑦チームワーク力、⑧ファシリテーション力、⑨リーダーシップ力の涵養を目標とします。これらを通して、科学技術と人間・社会の問題を理解し、行動につなげることを目指します。			以下がテーマの例ですが、各自で設定することが可能です。 <b>&lt;理論的テーマ&gt;</b> ・科学技術社会論、技術哲学 ・デザイン論 <b>&lt;実践的テーマ&gt;</b> ・多様なステークホルダー間の対話 ・テクノロジーやデザインに関するワークショップ ・環境や持続可能性などに関する教育			
授業の進め方						
<b>インプット(文献購読、情報収集)とアウトプット(プレゼンテーション、対話やワークショップ等の企画・運営)を行います。</b> また、これまでに経験したことのないことにチャレンジして報告をする「 <b>チャレンジ報告会</b> 」、読書体験を共有する「 <b>リーディングセッション</b> 」など、未来に向けて実践的に経験を拡張する機会も設けます。さらに、他大学のゼミとの協働、社会人との対話、各自の課題(問い)に即した現場調査などのフィールドワークも予定しています。						
学生の皆さんへのメッセージ						
次のような方のご応募を期待します。 ・「科学技術社会論」や「技術哲学」の授業内容やテーマに興味を持った方 ⇒ぜひ一緒に探求を深めましょう。 ・この分野についてはあまり勉強したことはないが、興味自体はある方 ⇒その興味をぜひ大切にしてください。 ・分野はともかく、ゼミをきっかけにいろいろ活動してみたい方 ⇒大歓迎です。教育をテーマに設定できるので教職希望の方も大歓迎です。 ・新しい気づきや学び、いろいろな人との対話を楽しめる(あるいは楽しみたい)という方 ⇒ぜひご応募ください。						
授業外で行うべき学習活動(準備学習等)			成績評価基準			
文献調査、文献購読(発表者と質問者としての準備)、課題図書購読、プレゼンテーションの準備、チャレンジ報告会の準備、ワークショップ等の企画・準備などを行います。			平常点(授業への参加、文献調査・購読、プレゼンテーション、ワークショップ等の企画・運営)を80%、年度末レポートを20%として評価します。			
募集にあたってのお知らせ(選抜方法・その他)						
募集対象学年	新2年生 ※新3年生は私の授業を履修したことのある方のみを募集の対象とします。					
志望理由書を書いてもらい、Zoomないし対面で面接を行い決定します。最大8名の募集です。 2023年度から開講された研究会です。新2年生の募集を基本としますが、新3年生の応募も可能です。ただし、新3年生は「科学技術社会論」「技術哲学」「研究会B」など、私の授業を履修したことのある方のみを募集の対象とさせていただきます。なお、4年次には「研究会修了論文」の執筆を推奨します。						
オープンゼミ・説明会						
オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ・説明会の情報詳細は学習支援システムに仮登録して確認してください。				
説明会開催有無	有					
備考						
各種情報は学習支援システムに掲載するので、興味がある人はまずは仮登録をしてください。						

# 2025 年度研究会募集要項

研究会Aを新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会Aを継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A		学習支援システム応募用授業コード			AA0439	
テーマ	都市を構成するエレメントの勉強会					
担当者	北川徹哉	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	火曜日 4限	
関連するコース	ローカル・サステナビリティコース 環境サイエンスコース					
授業の到達目標			授業のテーマ			
<ol style="list-style-type: none"> <li>国内または海外の都市の特徴を説明できる。</li> <li>都市環境と都市基盤について説明できる。</li> <li>都市内・都市間の各種の交通や流通を説明できる。</li> <li>都市の政策事例を説明できる。</li> </ol>			都市を身体に例えると、それを構成するヒト・モノやエネルギー、システムは臓器であり、血液であり、神経であったりします。どれもが欠かせないものです。このゼミは都市の健康診断をしたり、治療方法を考えるようなものと理解していただければと思います。また、学生さんが取り組みたいトピックスがあれば、どんどん申し出てください。			
授業の進め方						
<p>都市は多くのヒト、様々なモノやシステムで構成されています。たとえば、住宅やビルなどの居住施設やオフィス・工場、航空・鉄道・自動車・船舶などを媒体とする運輸や食品流通、電話・スマホ・PC・GPS などの通信、電力・ガス・ガソリンなどのエネルギーは私たちの生活・命の礎です。また、多種多様な企業や銀行をはじめとする金融機関などは経済産業・ビジネスの基盤です。上下水道や廃棄物処理などの公共事業や地震・台風などに対する防災も必要ですし、人々を癒す公園やカフェ、人々を楽しませるエンターテイメント施設などもあります。さらに、それぞれの事業にはプロフェッショナルな人間が従事しています。このゼミでは、都市を構成するこれらのヒトやモノ、システムについて勉強します。本年度は、テーマごとにグループに分かれて輪講・調査・作業・ミーティングを行うとともに、プレゼン・討論とを織り交ぜて研究を進めています。来年度もそういった方針だと思いますが、学生さんの意見や希望に応じてコロコロ変わります。ここ数年、各グループが取り組んできたテーマは、都市の拡大・収縮、都市の緑化、LRT、企業の SDGs、都市における自転車利用、地方創生、都市の空き家問題、スポーツスタジアムのビジネスと環境対策、農業の活性化、首都直下型地震など、多岐に渡ります。なお、ゼミ合宿については学生さんの意向を聞いて実施するかどうかを決めています。</p>						
学生の皆さんへのメッセージ						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほのぼのとやっているゼミです。むずかしく考える必要はありません。</li> <li>・ゼミでは初めて直面する内容もありますので、たとえ間違えてしまっても、それは当然であり、それを楽しむくらいで丁度よいのです。むしろ、間違えたこと、わからなかったこと、困っていること、を隠さず言えることは、あなたの魅力の一つとなります。</li> <li>・学生さん同士でお互いに助け合い、補い合いましょう。</li> </ul>						
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）			成績評価基準			
テキスト・資料の熟読、調査、発表の準備			参加、発表、質疑応答、討論などによる総合評価			
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）						
募集対象学年	新2～4年生					
<p>基本的に、志望理由書での書類選考とします。面接は希望者のみ、Zoomで行います。面接を希望する場合は、北川までメール（アドレスは下記の備考を参照）にて、学生証番号・氏名、面接希望の旨、面接の希望日時（第3候補くらいまで書いてください）をご連絡ください。折り返し、面接日時とZoom情報を返信します。</p>						
オープンゼミ・説明会						
オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ・説明会の情報詳細は学習支援システムに仮登録して確認してください。				
説明会開催有無	有					
備考						
何かありましたら、北川までメール(kitagawa@hosei.ac.jp)をください。						



# 2025 年度研究会募集要項

研究会Aを新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会Aを継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A		学習支援システム応募用授業コード			AA0440	
テーマ	持続可能な地域社会の創造					
担当者	小島 聡	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	金曜日 3 限	
関連するコース	ローカル・サステナビリティコース					
授業の到達目標			授業のテーマ			
共通テーマに関する知見、読書力、文章力、プレゼンテーションや討論などのコミュニケーション能力、時事問題を素材とする現代社会への見識、チームとしての協働力、プロジェクトなどの構想力、地域実践の企画運営能力、学外協力者との調整・関係構築力＝大学生としての総合的な能力・「実践知」を涵養します。			持続可能な地域社会への貢献をゼミのミッションとして掲げ、創造的な課題解決を図る地域のソーシャル・イノベーションと、ローカル SDGs を視野に入れて、環境・経済・社会の諸領域における多様な地域のテーマを統合的に検討しながら、地域実践に取り組みます。			
授業の進め方						
共通テーマでは、大都市、中小都市、農山村など、地域によって多様な「持続可能性」の課題と実践について探究するため、ソーシャル・イノベーションやローカル SDGs などの最先端の動向を理解した上で、長野県飯山市、神奈川県横須賀市・川崎市、千葉県香取市佐原地区、多摩川流域（源流から下流、東京湾まで）など、いくつかの地域をフィールドとして、現地の主体と連携した複数のプロジェクトチームをつくり、ゼミ生が交流人口や関係人口になりながら、調査研究・提言・地域実践を行っていきます。したがって、研究会＝地域シンクタンクやチェンジメーカーとしての役割を果たすラボ（Laboratory）として、社会貢献のあり方を模索します。なお個人研究では、各人が任意のテーマを設定し研究論文を作成します。						
学生の皆さんへのメッセージ						
チーム・ビルディングを図りながら、アクティブ・ラーニングの方法（グループワーク、地域実践、報告書作成、個人テーマの研究等）を組み合わせます。特に、高度な問題発見・解決型学習＝PBL（Problem/Project based Learning）を重視し、地域と連携した実践と地域の課題解決を目的とした調査研究・提言の循環（アクション・リサーチ）をめざします。学内で考え、さらにフィールド実践を通して地域の人々と共に考える「生きた学問」によって、社会に貢献する力を身につけましょう。						
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）			成績評価基準			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文献購読、時事問題の情報収集、書評の作成</li> <li>・ 共通テーマに関する事前のグループワーク</li> <li>・ 個人テーマに関する論文執筆のための調査研究</li> </ul>			参加姿勢、共通テーマに基づく各プロジェクトと個人テーマへの取り組み姿勢による総合評価とします。			
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）						
募集対象学年	2025 度の新 2 年生、15 名程度を募集します。					
<p>(1) 志望書と、対面または Zoom による面接で選考を行う予定です。詳細は学習支援システムに仮登録して確認してください。</p> <p>(2) B 研究会の重複履修については、負担過剰を避けるため、スキル系の研究会以外は原則不可とし、両立が可能であると判断できる場合にかぎり、例外的に選考段階で個別に許可を検討します。</p>						
オープンゼミ・説明会						
オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ・説明会の情報詳細は、学習支援システムに仮登録して確認してください。				
説明会開催有無	有					
備考						
詳細は、説明会やオープンゼミ、hoppii、SNS、YouTube など確認してください。積極的に地域実践に参加できる学生を歓迎します（都市部以外に、フィールドには過疎地域もあり、農山村の関係人口になりたい学生（田舎好き）に機会を提供できます。2025 年度は特に多摩川流域に注力します）。公務員（自治体職員）をめざしている学生は個別にサポートします。						



## 2025 年度研究会募集要項

研究会Aを新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会Aを継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A	学習支援システム応募用授業コード	AA0441			
テーマ	医療社会学				
担当者	後日通知 (佐伯英子の代替教員)	開講期	通年	※変更可能性有 <b>曜日時限</b>	木曜日 3限
関連するコース	ローカル・サステナビリティコース 人間文化コース				
授業の到達目標			授業のテーマ		
1. 医療や身体を社会的観点から捉えることにより新しい知見を得る。 2. 各自が設定した研究テーマに沿って調査を行い、卒業時には、研究会修了論文を提出する。			2025 年度、本研究会では医療という誰もが無関係ではない営みに焦点を当て、病むことや癒すこと、それを分析するための社会的な概念などについて理解を深めます。		
授業の進め方					
春学期と秋学期でそれぞれにテーマを設定し、テーマに沿って文献講読、その他のアクティビティを行います。これに加え、個人研究のためのワークショップと発表の機会も設けます。					
学生の皆さんへのメッセージ					
本研究会では、医療社会学の理解を深め、生命倫理で問題となる簡単には答えの出ない問いに取り組みます。積極的に考え、意見交換に参加してください。また、文献の講読や課題等を通して授業で英語を使うこともあります。間違いを恐れずに挑戦してください。高いレベルの英語力は必須ではありませんが、授業の内容の理解と共に語学力を高める意欲を期待しています。					
授業外で行うべき学習活動(準備学習等)			成績評価基準		
毎週課題となる文献を読み、ディスカッションに備え、質問や意見を用意してきてください。また、個人研究として各自がテーマを決めて調査と発表をすることが求められます。			授業中の発言、発表内容、課題への取り組み等から総合的に判断します。		
募集にあたってのお知らせ(選抜方法・その他)					
募集対象学年	新2年生				
<ul style="list-style-type: none"> <li>2025 年度は佐伯英子(通常の担当教員)がサバティカル(研究期間)で授業を行わないため、医師としての臨床経験を持つ代講教員による担当となります。研究会修了論文執筆のための個人プロジェクトの指導は佐伯がリモートで実施します。詳細は学習支援システムでお伝えします。</li> <li>現代社会論 I,II,III の履修を推奨しています。</li> <li>「研究会志望調査票」の内容と面接を元に選抜します。面接のスケジュール、可否の結果については、学習支援システムのお知らせ機能を使って発表します。</li> <li>本研究会は、4 年次での研究会修了論文提出を必須とします。</li> </ul>					
オープンゼミ・説明会					
オープンゼミ開催有無	(有)・無	オープンゼミ・説明会の情報詳細は 学習支援システムに仮登録して確認してください。			
説明会開催有無	(有)・無				
備考					

# 2025 年度研究会募集要項

研究会Aを新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会Aを継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A		学習支援システム応募用授業コード			AA0442	
テーマ	人権尊重の経営と労働 CSR					
担当者	櫻井 洋介		開講 期	通年		※変更可能性有 曜日時限  木曜日4限
関連するコース	サステイナブル経済・経営コース      グローバル・サステイナビリティコース					
授業の到達目標			授業のテーマ			
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「ビジネスと人権」や「労働 CSR」に関する知見を深め、責任ある企業行動の観点から「企業」と「人」との関係性を考察する力を身に付ける。</li> <li>■ グループワークや個人発表、論文の執筆を通じて、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、課題設定能力や論理的思考力等を鍛え、アカデミックスキルの基礎を身に付ける。</li> </ul>			<p>「人権尊重の経営と労働 CSR」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 本ゼミでは、近年、企業の社会的責任(CSR)やサステナビリティ経営の文脈で注目を集めている「ビジネスと人権」をテーマに扱います。</li> <li>■ サプライチェーン上の児童労働や強制労働等の社会的な問題や、ダイバーシティ経営(女性活躍・障害者雇用・外国人労働者の登用等を含む)、「働きやすい人間らしい仕事(ディーセント・ワーク)」の実現といった企業経営上の課題等、「人」に関連する様々な切り口から、責任ある企業経営の在り方を学んでいきます。</li> </ul>			
授業の進め方						
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 学生の興味関心領域に基づいて自主研究を行い、プレゼンテーションを実施いただくとともに、その内容をもとにディスカッション形式で進行することを基本とします(ゼミ生には積極的な発言を求めます)。なお、4年次には、研究会修了論文を執筆してもらいます。</li> <li>■ 夏季休暇には、ゼミ合宿を実施します。また、ゼミ生の関心領域等に応じて、ゲストスピーカーの招聘や校外学習(企業見学や他組織との交流、イベントへの参加等)を企画します。</li> </ul>						
学生の皆さんへのメッセージ						
<p>本ゼミでは、理論と実践の往還を目指しており、実務に携わる企業や組織との接点を大切にしています。大学を飛び出して学びの機会を得ることは、学生にとって貴重な経験になる一方で、責任をもって関与し、主体的に学ぶ姿勢が問われることになります。「学び」にも「遊び」にも全力で取り組みながら、自律的に考え行動することのできる学生を歓迎します。</p>						
授業外で行うべき学習活動(準備学習等)			成績評価基準			
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 自主研究(文献調査、資料作成、発表準備等)</li> <li>■ 企業訪問や校外学習等の実施</li> <li>■ 夏季休暇期間のゼミ合宿</li> </ul>			<p>ディスカッションへの参加、グループワークやゼミ活動への貢献、グループ発表や個人発表の内容等を総合的に評価します。</p>			
募集にあたってのお知らせ(選抜方法・その他)						
募集対象学年	新2年生～4年生(新2年生は10名程度)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 志望調査票と面接(対面 or Zoom)による選考を行います。詳細は学習支援システムを確認して下さい。</li> <li>■ 4年次には研究会修了論文の執筆を求めます。</li> <li>■ 他Bゼミとの重複履修を認めます。</li> <li>■ 面接試験の日程連絡及び結果報告等は、Hoppi とゼミのInstagramにて行いますので、ご確認下さい。 ※Instagram: 法政大学_櫻井研究会 A (URL: <a href="https://www.instagram.com/hosei.sakuraizemi/">https://www.instagram.com/hosei.sakuraizemi/</a>)</li> </ul>						
オープンゼミ・説明会						
オープンゼミ開催有無	有		オープンゼミ・説明会の情報詳細は 学習支援システムに仮登録して確認してください。			
説明会開催有無	有					
備考						

# 2025 年度研究会募集要項

研究会Aを新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会Aを継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A		学習支援システム応募用授業コード			AA0443	
テーマ	自然環境と災害					
担当者	杉戸 信彦	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	火曜日 5 限	
関連するコース	ローカル・サステナビリティコース 環境サイエンスコース					
授業の到達目標			授業のテーマ			
<ul style="list-style-type: none"><li>自然環境の地域的差異とその要因、歴史の変遷を具体的に説明できる。</li><li>自然環境と人間社会のかかわりあい、とくに自然環境が人間社会に与える影響を具体的に記述できる。</li><li>調査法や発表法を身につける。</li><li>地図を活用できる。</li></ul>			自然環境にかかわる理解と考え方は、持続可能な社会を構築する鍵のひとつです。 本研究会では、自然環境そのものに加え、自然環境と人間社会のかかわりあいについて、災害という側面を重視しながら主に自然地理学的な観点から考え、自然環境が人間社会に与える影響や、人間社会のあり方を見つめなおします。			
授業の進め方						
<p>グループワークや文献講読、個人研究などを行います。キーワードは、自然環境、自然災害、地形環境、地震、津波、豪雨、火山噴火、気候変動、予測、土地条件、土地利用、ハザードマップ、災害の歴史、土地の歴史、防災教育、地域性、メカニズム、歴史の変遷などです。自然環境にかかわる内容をひろく扱います。</p> <p>とくに個人研究は、皆さんの主体的な問題意識や興味関心がベースになります。はじめは漠然としていても構いませんが、積極的に学び、意義深いテーマや重要な地域を見出すよう期待しています。</p>						
学生の皆さんへのメッセージ						
<p>本研究会を通じ、身近な自然環境への意識と関心を持ち、地域性やメカニズム、歴史などを考えていただければと思います。地域社会の自然環境がもつ個性、また恩恵と災害を正しく理解する礎になればと考えています。地理学的な視点から物事を読み解く力はさまざまな場面で必ず役立ちます。</p> <p>研究会での取り組み、またその積み重ねは、将来のご自身を支えるものになります。積極的に取り組んでいきましょう。</p>						
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）			成績評価基準			
資料収集や調査、発表準備、まとめ等を行う。 日帰り巡検を2回予定しています。			平常点やレポート等の総合評価（100%） 4年次には研究会修了論文を提出することとします。			
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）						
募集対象学年	新2年生8名程度・新3年生若干名 *AとBの両者に応募は可だが受講は原則いずれか					
<p>志望調査票に、志望理由と取り組みたいテーマを記してください。後者は箇条書きでも構いません。</p> <p>選抜を行う場合、志望調査票の記述内容や面接などによって行います。詳細は学習支援システムに仮登録して確認してください。</p> <p>「自然環境論 I」「同 II」「同 III」「自然災害論」を未履修の学生は、来年度履修するよう検討してください。</p>						
オープンゼミ・説明会						
オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ・説明会の情報詳細は学習支援システムに仮登録して確認してください。				
説明会開催有無	無					
備考						
研究会個別相談会には是非ご参加ください。 質問等は杉戸までメールをお送りください。						

# 2025 年度研究会募集要項

研究会Aを新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会Aを継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A		学習支援システム応募用授業コード			AA0444	
テーマ	持続的な社会を目指して:環境経済学的アプローチを用いて					
担当者	杉野 誠	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	木曜日 5限	
関連するコース	サステイナブル経済・経営コース グローバル・サステイナビリティコース					
授業の到達目標			授業のテーマ			
本研究会では、(1)都市における環境問題を広い視野でとらえ、(2)各自の価値基準に基づく政策思考力を高め、(3)他者に意見を伝え・議論できるようになることを目的とします。			日本の地球温暖化対策(カーボンニュートラル&脱炭素政策)や廃棄物問題など持続可能な社会構築に関連する内容を取り扱います。			
授業の進め方						
文献の精読を行う。また、中央環境審議会などで議論されている脱炭素・カーボンニュートラル政策の方向性などについて紹介する。毎回、レポーターを選び報告をする(レポーターは、毎回授業内で決定)。レポーター以外は、質問や議論を活発に行うこと。また、各自のまとめレポートの進捗状況を定期的に報告する。						
学生の皆さんへのメッセージ						
本研究会では、地球温暖化対策について議論を交えながら実行可能な方法について検討し、現行制度・施策の問題点・論点を学んでいきます。そのため、受講生間のコミュニケーションを重視します。くわえて、他者に対する気配りや最後まで諦めないことも重視します。 英語の文献を読む場合があります。 ゼミ合宿およびインゼミ(他大学との研究会)を実施する予定です。ゼミ合宿は 2泊3日を休み期間中に行います(場所・時期未定)。インゼミは、学期期間中(11月から1月の間)に早稲田大学・上智大学と行う可能性があります。両方に参加できる方のみ受講を認めます。						
授業外で行うべき学習活動(準備学習等)			成績評価基準			
テキスト・資料の熟読、関連情報の収集および報告資料の作成 まとめレポートのトピックを決定し、各自でレポートを進める。			本演習の成績は以下の4点に基づいて決定します。 ① 報告資料の内容 ② プレゼンテーション能力 ③ 議論への参加(発言内容) ④ レポート			
募集にあたってのお知らせ(選抜方法・その他)						
募集対象学年	新3年生のみ(若干名)					
環境経済学の基礎知識を習得していることを前提とします。環境経済学の基礎知識がない場合、研究会Bに応募してください。 選考方法: 面談の内容は、(1)研究会のテーマに対する熱意(動機)、(2)積極性(コミュニケーション)および(3)その他となります。これらを総合的に判断いたします。 その他: 履修期間は、1年間を前提として研究会を運営します。 複数年の履修を前提とした演習となります。 また、ゼミ合宿およびインゼミにも参加すること。						
オープンゼミ・説明会						
オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ・説明会の情報詳細は				
説明会開催有無	無	学習支援システムに仮登録して確認してください。				
備考						



# 2025 年度研究会募集要項

研究会Aを新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会Aを継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A		学習支援システム応募用授業コード			AA0445	
テーマ	マスメディア研究					
担当者	ストックウェル・エスター	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	月曜日 4限	
関連するコース	グローバル・サステナビリティコース 人間文化コース					
授業の到達目標			授業のテーマ			
<p>This course provides an introduction to contemporary theoretical and practical discussions about the role of mass media in today's society. Topics include media industries, the dual function of media as both a source of information and entertainment, the short-term and long-term effects of media, media audiences, and models of mass communication. Throughout the course, students will critically examine the extent to which media influence our perceptions versus how we use media to reinforce our existing beliefs.</p>			<p style="text-align: center;">* <b>Mass Media Research</b> *</p> <p>In today's industrialized world, media are ubiquitous. One of their key roles is to expand our understanding of the environment beyond what we can experience firsthand. Through selective presentation and the emphasis of certain themes, media shape our perceptions of facts, norms, and societal values. They influence how audiences perceive social reality and help form attitudes toward issues, objects, or nations. This subject will examine these concepts in depth.</p>			
授業の進め方						
<p>Classes will include a series of short lectures and visual materials, followed by group and class discussions on the concepts covered. Students are also expected to prepare by reading assigned articles related to the upcoming class topics. In the first semester, the focus will be on learning the theories and gaining an overview of various aspects of mass communication. In the second semester, students will conduct their own research projects on the effects of mass media.</p>						
学生の皆さんへのメッセージ						
<p>「世界」に対する私たちの知識の大半は間接的に得るものです。行ったことのない国や地域にも、何らかのイメージを持っているものですが、そのほとんどはマスメディアを通して得ていると言っても過言ではなく、マスメディアの影響の重大さが想像できます。近年のマスメディアの特徴の一つは情報の提供の速さであり、世界のどこかで何かの事件が起きたら、すぐさま世界中がその事件について大量の情報を得ることができます。しかし、その大量の情報の中から、どれが信頼できるかが重要。それゆえに、我々の意見や態度に大きな影響を与えるマスメディアをより深く研究する必要があります。このゼミは、語学のためではなく、マス・コミュニケーションという分野について英語で学ぶのは目的なので、マスメディアの影響に興味のある方のご参加をお待ちしています。</p>						
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）			成績評価基準			
<p>Students are required to prepare for each class by reading handouts and assigned articles related to upcoming topics.</p>			<p>Active participation in class discussions is expected. Assessment will be based on weekly participation, presentations, and written assignments.</p>			
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）						
募集対象学年	<p>新3-4年生 (グローバルコミュニケーション科目またはストックウェルセミナーBを受講した学生のみが募集対象となります。)</p>					
オープンゼミ・説明会						
オープンゼミ開催有無	有・ <input type="checkbox"/> 無	<p>オープンゼミ・説明会の情報詳細は 学習支援システムに仮登録して確認してください。</p>				
説明会開催有無	有・ <input type="checkbox"/> 無					
備考						

# 2025 年度研究会募集要項

研究会Aを新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会Aを継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A		学習支援システム応募用授業コード			AA0446	
テーマ	自然環境と人間との共生(主に地域環境の視点から)					
担当者	高田 雅之	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	金曜日 3限	
関連するコース	ローカル・サステイナビリティコース・環境サイエンスコース					
授業の到達目標			授業のテーマ			
<p>以下の4点を身に付けることを目標とします。</p> <p>①自然環境に関する幅広い知識・見識と柔軟な考え方</p> <p>②設定課題について自らの意見を形成し、表明及び伝達する能力(プレゼンテーション/レポート能力)</p> <p>③他者との議論を通して、異なる視点の意見を受け入れ合意を形成する能力(コミュニケーション能力)</p> <p>④自ら課題を設定し、多角的な情報を収集・分析し、体系的にまとめて考察する能力(俯瞰的/論理的思考)</p>			<p>自然のもつ奥深い魅力を探求するとともに、生態系や野生生物の理解に基づいて、自然環境を取り巻く諸課題に対し望ましい在り方を考究することをテーマとします。その際、<b>地域の社会や経済との関わり</b>の視点を中心に、国際的視点や他の諸問題との関わりなど、様々なアプローチによって豊かな<b>発想力と大局観・俯瞰力</b>を養います。研究会を通して多様な知識による基盤を作り、その上に各自の問題意識を組立て、<b>修了論文</b>を目指します。</p>			
授業の進め方						
<p>ネイチャーポジティブ、生態系・野生生物と人間の社会経済との関係などをテーマに以下のことを実施します。</p> <p>①<b>グループワーク</b>をとおして、設定課題について調査・考究し、解決に向けた成果を取りまとめます</p> <p>②<b>個人学習</b>によって、設定課題について情報整理・企画立案し、成果を発表します</p> <p>③<b>野外学習・サブゼミ・ゼミ合宿</b>を通じて、市民活動/企業とのコラボやフィールドに学び、関心テーマを実践的に掘り下げ、自然を読み取る知識と経験、行動力・探求力・結実力を養います</p> <p>④自らの研究テーマを設定し、情報収集と調査、分析と考察を重ね、最終的な<b>修了論文</b>作成につなげます</p>						
学生の皆さんへのメッセージ						
<p>研究会が皆さんにとって有意義となるか否かは、個々人の自発性と創造性にかかっています。そのため、ゼミ活動への<b>参加意欲と全体への貢献意識</b>の高い人、また<b>合宿・サブゼミ・週末に行う野外学習に積極的に参加</b>する人を歓迎します。“ネイチャーポジティブ”は私達の生存に関わり、自然環境を取り巻く様相は多面的でどれも<b>難解な答えのないテーマ</b>です。ゼミではそんな問題に挑み続けます。これからの社会を生きるのに不可欠な<b>「探求力」と「解決力」</b>を身に付けましょう。</p>						
授業外で行うべき学習活動(準備学習等)			成績評価基準			
<p>設定課題に対して、事前調査、所見まとめ、資料作成、発表準備などを毎回必ず行ってもらいます。また合宿や週末等に行う野外学習などへの積極的参加を要件とします。</p>			<p>提出物の内容と期日遵守の他、学習意欲、受講態度、グループワーク等への貢献、野外学習・合宿・サブゼミ等への参加、ゼミ運営への貢献などを総合的に評価します。</p>			
募集にあたってのお知らせ(選抜方法・その他)						
募集対象学年	新2年生					
<p><b>募集人数</b>: 来年春に新2年生となる人を<b>10名程度</b></p> <p><b>選考</b>: 選考は書面及び面接(<b>原則対面</b>)により行います。志望調査表には、「志望理由」に加えて「ゼミ活動を学生生活の中でどう位置付けたいか」と「自分をゼミ生集団の中でどう位置付けたいか」についても記載してください。</p> <p>2つのAゼミを併願する場合は、必ずそれぞれに志望調査票を提出して下さい。</p> <p>選考に関する連絡については、<b>学習支援システム(Hoppii)</b>でお知らせしますので随時確認して下さい。</p> <p><b>その他</b>: 「自然環境政策論Ⅰ(春期)及びⅡ(秋期)」を必ず履修して下さい。また「サイエンスカフェⅢ(生態学)」(春期)及び「自然環境論Ⅳ」(秋期)の履修も推奨します。</p>						
オープンゼミ・説明会						
オープンゼミ開催有無	有	<p>オープンゼミ・募集相談会の情報詳細は<b>学習支援システム(Hoppii)</b>にてお知らせしますので<b>仮登録の上で確認</b>してください。</p>				
説明会開催有無	有					
備考						

# 2025 年度研究会募集要項

研究会Aを新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会Aを継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A		学習支援システム応募用授業コード			AA0447	
テーマ	自然環境と人間との共生(主に国際的な視点から)					
担当者	高田 雅之	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	金曜日 4限	
関連するコース	グローバル・サステイナビリティコース・環境サイエンスコース					
授業の到達目標			授業のテーマ			
<p>以下の4点を身に付けることを目標とします。</p> <p>①自然環境に関する幅広い知識・見識と柔軟な考え方</p> <p>②設定課題について自らの意見を形成し、表明及び伝達する能力(プレゼンテーション/レポート能力)</p> <p>③他者との議論を通して、異なる視点の意見を受け入れ合意を形成する能力(コミュニケーション能力)</p> <p>④自ら課題を設定し、多角的な情報を収集・分析し、体系的にまとめて考察する能力(俯瞰的/論理的思考)</p>			<p>自然のもつ奥深い魅力を探求するとともに、生態系や野生生物の理解に基づいて、自然環境を取り巻く諸課題に対し望ましい在り方を考究することをテーマとします。その際、国際的視点や海外事例を中心に、加えて地域の社会経済や他の諸問題との関わりなど、様々なアプローチによって豊かな発想力と大局観・俯瞰力を養います。研究会を通して多様な知識による基盤を作り、その上に各自の問題意識を組立て、修了論文を目指します。</p>			
授業の進め方						
<p>ネイチャーポジティブ、生態系・野生生物と人間の社会経済との関係などをテーマに以下のことを実施します。</p> <p>①グループワークをとおして、設定課題について調査・考究し、解決に向けた成果を取りまとめます</p> <p>②個人学習によって、設定課題について情報整理・企画立案し、成果を発表します</p> <p>③野外学習・サブゼミ・ゼミ合宿を通じて、市民活動/企業とのコラボやフィールドに学び、関心テーマを実践的に掘り下げ、自然を読み取る知識と経験、行動力・探求力・結実力を養います</p> <p>④自らの研究テーマを設定し、情報収集と調査、分析と考察を重ね、最終的な修了論文作成につなげます</p>						
学生の皆さんへのメッセージ						
<p>研究会が皆さんにとって有意義となるか否かは、個々人の自発性と創造性にかかっています。そのため、ゼミ活動への参加意欲と全体への貢献意識の高い人、また合宿・サブゼミ・週末に行う野外学習に積極的に参加する人を歓迎します。“ネイチャーポジティブ”は私達の生存に関わり、自然環境を取り巻く様相は多面的でどれも難解な答えのないテーマです。ゼミではそんな問題に挑み続けます。これからの社会を生きるのに不可欠な「探求力」と「解決力」を身に付けましょう。</p>						
授業外で行うべき学習活動(準備学習等)			成績評価基準			
<p>設定課題に対して、事前調査、所見まとめ、資料作成、発表準備などを毎回必ず行ってもらいます。また合宿や週末等に行う野外学習などへの積極的参加を要件とします。</p>			<p>提出物の内容と期日遵守の他、学習意欲、受講態度、グループワーク等への貢献、野外学習・合宿・サブゼミ等への参加、ゼミ運営への貢献などを総合的に評価します。</p>			
募集にあたってのお知らせ(選抜方法・その他)						
募集対象学年	新2年生					
<p>募集人数: 来年春に新2年生となる人を10名程度</p> <p>選考: 選考は書面及び面接(原則対面)により行います。志望調査表には、「志望理由」に加えて「ゼミ活動を学生生活の中でどう位置付けたいか」と「自分をゼミ生集団の中でどう位置付けたいか」についても記載してください。2つのAゼミを併願する場合は、必ずそれぞれに志望調査票を提出して下さい。</p> <p>選考に関する連絡については、学習支援システム(Hoppii)でお知らせしますので随時確認して下さい。</p> <p>その他: 「自然環境政策論Ⅰ(春期)及びⅡ(秋期)」を必ず履修して下さい。また「サイエンスカフェⅢ(生態学)」(春期)及び「自然環境論Ⅳ」(秋期)の履修も推奨します。</p>						
オープンゼミ・説明会						
オープンゼミ開催有無	有	<p>オープンゼミ・募集相談会の情報詳細は学習支援システム(Hoppii)にてお知らせしますので仮登録の上で確認してください。</p>				
説明会開催有無	有					
備考						



# 2025 年度研究会募集要項

研究会Aを新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会Aを継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

<b>A</b>		<b>学習支援システム応募用授業コード</b>			<b>AA0448</b>		
<b>テーマ</b> 文化人類学の視点から文化を探る							
<b>担当者</b>		高橋五月		<b>開講期</b>	通年	※変更可能性有 <b>曜日時限</b> 木曜日 4限	
<b>関連するコース</b>		人間文化コース（場合によってはグローバル・サステナビリティコース選択も可能ですが、人間文化コースの科目履修との両立を奨励します。教員に相談してください。）					
<b>授業の到達目標</b>				<b>授業のテーマ</b>			
1) 文化人類学についての基本的な理解を得る、2) エスノグラフィーの知識と実践スキルを得る、3) 学術的議論を応用し、身近な社会問題や文化的営みについて具体例を交えながら自分の考えを述べるができる、4) 文献研究、研究発表、論文作成のスキルを得る。				授業テーマは文化人類学的視点を用いて身近な社会問題や文化的営みを調査研究することです。調査手法はエスノグラフィー（人の話を聞き、行動を観察し、その社会・文化背景を考察する）を用います。研究テーマは自由です。（例：都内の農業、ホテル狩り、英語カフェにおける国際交流、子ども食堂、死生観、地酒と地域振興、「東京の島」とイメージ、銭湯、等々）			
<b>授業の進め方</b>							
本研究会は大きく分けて3つの活動で構成されます。 ① 文献リーディング:ゼミ生の調査対象地、調査テーマ、エスノグラフィーに関連した文献を全員で講読し、意見交換。 ② 現地調査:各自が選択した研究テーマで調査計画書を作成し、実際に現地調査を実行し、発表し、意見交換。 ③ 研究分析と論文作成:現地調査をもとにリサーチクエスチョンを練り、調査データを考察し、研究論文を仕上げ、発表する。(4年生は卒論を完成させ、発表する)							
<b>学生の皆さんへのメッセージ</b>							
高橋 A ゼミは卒論提出が必須です。A ゼミ生は 3 年生と 4 年生で構成されており、内容は主に卒論研究に向けた準備です。高橋ゼミの「核」は文化人類学的視点ですが、学生が取り組む卒論研究テーマは多種多様です。その為、ゼミでは自分の研究テーマだけでなく他のゼミ生が取り組むテーマに関連する文献講読や意見交換にも積極的に参加します。自分とは異なる研究テーマに取り組むゼミ生と意見交換することで自分の視野が広がる楽しさを味わうこともゼミの醍醐味です。							
<b>授業外で行うべき学習活動（準備学習等）</b>				<b>成績評価基準</b>			
関連文献の講読、文献感想文、ファシリテーター、調査準備、現地調査、発表準備、論文作成				平常点（意見交換への参加など）、フィールドワーク、各種発表、文献感想文や論文による総合評価			
<b>募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）</b>							
<b>募集対象学年</b>		高橋 B ゼミを受講済みの新 3、4 年生、もしくは 2025 年度に高橋 A・B ゼミを同時履修できる新 3 年生					
* 志望票には、現時点で考えている卒論研究テーマとその理由についても書いてください。 * 2025 年度に高橋 A・B ゼミの同時履修を希望する新 3 年生は必ず A ゼミと B ゼミの両方に応募してください(また志望票には A・B ゼミ同時履修希望について言及してください)。 * 2025 年度までに「環境人類学 I」「同 II」「同 III」の 2 科目以上を履修することを奨励します。 * 新 2 年生でエスノグラフィーを学びたい方は、まずは B ゼミを受講し、エスノグラフィーの基礎を学んでください。B ゼミ履修者は希望者全員が次年度から A ゼミに参加可能です。 * A ゼミ受講生は人間文化コース選択を奨励します。グローバルサステナビリティコース選択を希望する方は高橋まで個別にメールでご連絡ください。							
<b>オープンゼミ・説明会</b>							
<b>オープンゼミ開催有無</b>		有					
<b>説明会開催有無</b>		有					
10/24, 11/7, 11/14(木) 4 限@BT901 で開催予定。詳細は Hoppii に仮登録して確認してください。質問等は高橋 <stakahashi@hosei.ac.jp> に気軽にどうぞ。							
<b>備考</b>							



# 2025 年度研究会募集要項

研究会Aを新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会Aを継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

<b>A</b>		学習支援システム応募用授業コード			AA0449	
テーマ	「持続可能な社会を求めて: 途上国の人々と先進国の私たち」					
担当者	武貞 稔彦	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	金曜日 5 限	
関連するコース	ローカル・サステイナビリティコース		グローバル・サステイナビリティコース			
授業の到達目標			授業のテーマ			
本研究会では、(ア)持続可能性(もしくは開発と環境)をめぐる議論を広い視野から捉え、(イ)自らの意見を持ちそれを人に伝え、(ウ)途上国、先進国を問わず、将来の持続可能な社会の姿を自らの価値観に基づき想像／構想できるようになることを目標とします。			2025 年度は「貧困」をテーマとします。「貧困」とはどのような状態なのか、途上国の貧困と先進国の貧困はどのように異なるのか、などの問いを取り上げ貧困のない持続可能な社会の姿や先進国と途上国の関係を考えます。2026 年度は「支援」、2027 年度は「環境」をテーマとする予定です。			
授業の進め方						
主に a)基礎文献の精読、b)与えられた課題に関する個人またはグループによる調査とグループディスカッション、c)参加者の意見表明の機会、などからなります。受講者の積極的な提案に基づき、演習の方法等は随時見直しを行います。(なお、授業とは別にサブゼミが金曜日 6 限に学生の自主活動として実施されることがあります。)						
学生の皆さんへのメッセージ						
以下のキーワードに強い関心のある人の応募を期待します。【途上国、貧困、援助／支援、環境、正義、社会】 演習参加者に最も求められるものは知識や学力ではなく「コミットメント」と「他者への配慮」です。教員としては、ゼミへの時間通りの出席および事前の予習は当然のことと考えています。 とりわけ将来、国際協力や途上国開発にかかわる仕事に就きたい人、途上国を中心とした異文化と関わりながら国際的な舞台で仕事をしたい人は積極的に応募を検討してください。						
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）			成績評価基準			
基礎文献、与えられた課題は必ず熟読して演習に臨むこと。関連して紹介された参考書なども出来る限り目を通すこと。必要に応じてゼミ外でもお互い積極的にコミュニケーションをとり、課題等について議論する機会を設けること。			研究会での議論への貢献、必要なレポート、その他研究会運営における貢献などを総合的に勘案します			
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）						
募集対象学年	新 2 年生 10 名程度。 新 3、新 4 年生の応募も可。(参加実績は有ります。)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>* 4 年次に研究会修了論文を執筆します。</li> <li>* 他研究会Bとの重複履修は認められません。負担が心配な人は教員に個別に相談してください。</li> <li>* 応募者多数の場合は、志望調査票の精査、面談等を通じた選考を行います。選考方法およびスケジュールについては、学習支援システムを通じて連絡します。</li> </ul>						
オープンゼミ・説明会						
オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ・説明会の情報詳細は学習支援システムに仮登録して確認してください。				
説明会開催有無	有					
備考						
特になし。						

# 2025 年度研究会募集要項

研究会Aを新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会Aを継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A	学習支援システム応募用授業コード	AA0450			
テーマ	他者の文化、社会の他者——ヨーロッパと近現代日本の思想・文化・社会				
担当者	竹本 研史	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	月曜日 5限
関連するコース	◎人間文化コース、グローバル・サステイナビリティコース				
<b>授業の到達目標と授業のテーマ</b>			<b>授業の進め方</b>		
<p>本研究会では、マイノリティを中心とした〈他者〉がどのように文化をつくり、逆に〈他者〉はどのように表象されてきているのか、またその他者が実際に、社会においてどのように排除されているのか、どのように社会的に包摂すべきなのか、それら以上の諸点について、ヨーロッパや近現代日本を舞台にして、人文・社会系の文献や芸術作品の分析を通じ</p>			<p>て考察することがテーマです。 各ゼミ生は、ゼミでの学習や講義、社会連携科目、自身の個人研究とフィールド調査を通じて、テキストの読解力の養成とともに、自身の専門的知見を広め見識を深めることによって、最終的には、<b>4年生の最後にその学生にしか書けない立派な研究会修了論文を完成させることを目標</b>としています。</p>		
<p>(1) ヨーロッパや近現代日本における、他者の文化、社会の他者について、古典も含めた文献講読・芸術作品分析+秋学期の個人研究発表。 (2) 年1、2回、事前学習のうえ、近隣の文化施設での芸術鑑賞とゼミ合宿を通じた人文系のフィールド調査。 (3) サブゼミで、ゼミの卒業生も参加する読書会をやっています。</p>					
<b>学生の皆さんへのメッセージ</b>					
<p>ゼミは、たくさん恥をかき、数多くのミスを重ねていく場です。重要なのは、それを恐れず、教員やゼミの同僚たちの助言を受けながら、毎回の課題を誠実にかつ確実にこなすこと、そして、これを問わねば生きていけないという、各人にとって切実なテーマを深く追求していくこと、ただそれだけです。 古代から現代までのヨーロッパ、および近現代日本の文化や社会に関心がある方であれば大歓迎。これまでのゼミ生の研究テーマも多岐にわたります（ゼミ生の研究テーマについては学習支援システム掲載資料を参照）。</p>					
<b>授業外で行うべき学習活動（準備学習等）</b>			<b>成績評価基準</b>		
<p>(1) 授業で扱う文献は熟読のうえ、疑問点を整理し、専門用語などは事前に調べておくこと。 (2) <b>とにかく本を読むこと</b>。映画、美術、音楽、演劇、ダンス、バレエ、マンガ、スポーツ、キャンプ、落語などを積極的に鑑賞、観戦、実践すること。 (3) 人文・社会科学分野の文献を数多く揃えている書店や古本屋、図書館に足しげく通うこと。</p>			<p>以下により評価。 (1) <b>2、3年生</b>：研究発表も含めた、授業中の数回の発表と司会、積極的な議論への参加、ゼミの運営への貢献、夏・冬2回の期末レポートと、2ヶ月に1度の小レポート、6月の研究計画書、以上をすべて提出すること。 (2) <b>4年生</b>：授業中の数回の司会、積極的な議論への参加、ゼミの運営への貢献、2回の研究会修了論文の中間報告。5月まで月1回の小レポート、6月の卒論構想届、<b>研究会修了論文</b>、以上をすべて提出すること。</p>		
<b>募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）</b>					
<b>募集対象学年</b>	新2-4年生(ただし、新4年生は次年度までに竹本「現代思想と人間 I・II」の単位修得が必須)				
<p>志望調査票と面接により選抜。選考にあたり志望調査票の記載内容はゼミ生にも共有されます。<b>BゼミやILACの「教養ゼミ」との掛け持ち、自分の専門分野に関連した他学部公開科目などの受講を積極的に奨励</b>しています。また<b>4年次進級時までに、「現代思想と人間 I・II」両科目の単位</b>を必ず修得しておくこと。</p>					
<b>オープンゼミ・説明会</b>					
<b>オープンゼミ開催有無</b>	有	オープンゼミ・説明会の情報詳細は			
<b>説明会開催有無</b>	有	学習支援システムに仮登録して確認してください。			
<b>備考</b>					
その他、質問があれば、竹本までメールで連絡すること。					

# 2025 年度研究会募集要項

研究会Aを新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会Aを継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

<b>A</b>		<b>学習支援システム応募用授業コード</b>			<b>AA0451</b>	
<b>テーマ</b>	世界と日本の生活保障—社会福祉と市民社会					
<b>担当者</b>	辻 英史	<b>開講期</b>	通年	<b>※変更可能性有 曜日時限</b>	火 曜日 5 限	
<b>関連するコース</b>	ローカル・サステナビリティコース					人間文化コース
<b>授業の到達目標</b>			<b>授業のテーマ</b>			
<p>2000年頃から日本は格差社会になったと言われはじめました。経済的に貧困な生活を送っている人の数が増えただけでなく、非正規労働に就いている人々、高齢者、シングルマザー、不登校やひきこもりなど、生活が不安定で困窮化するおそれのある人、また日常的に他者とのつながりをもつ機会がなく、孤立した状態にある人たちの存在が注目を集めるようになりました。</p> <p>このゼミでは、このような「社会的弱者」と呼ばれる人々をリスクや困窮、孤立からどのように救い、地域社会や人間関係の中に包摂していくかという問題を扱います。</p>			<p>このゼミでは、「社会的な弱者」とはどのような人たちなのか、彼ら彼女らの生活を支え、社会の一員として共生していくためにどのような試みがおこなわれているのかを調べ、その問題点を明らかにします。日本を中心に扱いますが世界のそれぞれの地域にも視野を広げます。また現在だけでなく、歴史上のさまざまな時代も考察の対象とします。さらに、社会福祉に関する行政や法律・制度だけでなく、人間相互の助け合いのあり方(「連帯」)や NPO・NGO といった市民社会の活動を含めて幅広く扱います。2025年度のテーマは昨年度に引き続き「外国人市民との共生」です。</p>			
<b>授業の進め方</b>						
<p>このゼミでは、以下のメニューを実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 文献購読: テーマに関連する重要文献(主として日本語)を講読する。</li> <li>② グループワーク: 参加者各自の関心に応じてグループに分かれ、調べた内容を報告する。</li> <li>③ フィールド調査・現地訪問: 毎年のテーマに関連する施設や団体を訪問し、その活動を見学またはその手伝いをする事でグループワークに活かす。</li> <li>④ サブゼミ: 通常のゼミの時間に続いて、2年生の読解力改善のための文献精読や4年生の卒論準備のための勉強会を開催する。</li> <li>⑤ 他大・他研究会との合同ゼミ、ゼミ合宿、遠足など、大学外部での催し: 年1回程度開催予定。</li> <li>⑥ 面談: 夏休みと春休みに全ゼミ生に個別面談を実施します。</li> </ol>						
<b>学生の皆さんへのメッセージ</b>						
<p>世の中元気で健康な人ばかりではありません。裕福で幸せな人ばかりでもありません。皆さんの周りにも、普段は気が付かないかもしれませんが、きっと多くの「社会的弱者」がいるはず。そのような人を助けるにはどうしたらいいかを考えるのがこの研究会です。ボランティアやサークルで、そうした支援活動に参加している人/したいと思っている人にお勧めです。</p> <p>研究会は、授業時間の中だけで完結するものではありません。文献講読の場合は事前に指定されたテキストを読んでくるのは当然です。グループワークでは、授業以外の時間に自分で調べてきた内容についてグループで話し合い、考えを深めていきます。発表者や先生の話を受動的に聞くだけでなく、自分の経験や日頃から考えていること、自発的に調べたことについて積極的に発言できる人を歓迎します。</p> <p>なお、この研究会では4年次の研究会修了論文執筆は必須です。</p>						
<b>授業外で行うべき学習活動(準備学習等)</b>			<b>成績評価基準</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト購読</li> <li>・グループワークと発表の準備</li> <li>・フィールド調査・現地訪問の準備</li> <li>・サブゼミの準備</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回のゼミでの議論への参加、発表・報告</li> <li>・グループワーク報告(各学期)、レポート(秋学期末)</li> </ul>			
<b>募集にあたってのお知らせ(選抜方法・その他)</b>						
<b>募集対象学年</b>	新2年生: 7名程度					
<p>参加希望者は、Hoppii に仮登録し、学部 Youtube 動画や説明ファイル「2025 年度辻 A ゼミ概要」(Hoppii からダウンロードおよびオープンゼミ・説明会で配布)を参考にして、自分がなぜこの研究会に入りたいと考えたのかを具体的に志望理由書に書くこと。なぜ社会福祉に関心を持ったのか、具体的にそのなかのどの領域に興味があるのか、あるいは、どのような「社会的弱者」に関心があるのか、などを書いてください。記入内容にもとづいて面接(オンライン)を実施します。詳細は Hoppii からの一斉配信メールで連絡します。</p>						
<b>オープンゼミ・説明会</b>						
<b>オープンゼミ開催有無</b>	有	オープンゼミ: 10/22、10/29、11/5、11/12 火曜 5 限・F506				
<b>説明会開催有無</b>	有	説明会: 10/22、10/29、11/5、11/12 ゼミ終了後・F506				
<b>備考</b>						
2025 年度の新3年生は募集しません。						

# 2025 年度研究会募集要項

研究会Aを新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会Aを継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A		学習支援システム応募用授業コード			AA0452	
テーマ	外国企業の英文 CSR 報告書を読む					
担当者	永野秀雄	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	火曜日 2限	
関連するコース	サステナブル経済・経営コース グローバル・サステナビリティコース					
授業の到達目標			授業のテーマ			
このゼミナールは、①4年生で必修となる研究会修了論文を書く力をつけること、②文献読解を中心とした英語力を身につけること、③日米の環境法の基本を学ぶことを目標としています。このほか、基礎力を固めるために、①ラジオビジネス英語の暗誦、②Japan Times 1面の訳を毎回の課題としています。また、通常のゼミナールでの学習に加え、基礎情報技術者試験、水質関係第1種公害防止管理者試験、英検準1級、及びTOEIC 800点以上の取得を目標としています。			この研究会は、環境監査法務の基本を学ぶものです。2025年度は、英文で書かれた外国企業のCSR報告書又はサステナビリティ報告書を学習します。			
授業の進め方						
ゼミ生が班を編成して、班ごとの発表が行われます。合宿(又は大学でのゼミ)は、春・夏の2回で、ディベートとスピーチ訓練、および、4年生による研究論文の発表が行われます。						
学生の皆さんへのメッセージ						
この研究会で勉強する内容は、質・量とも、かなりのものがあります。自分1人で同じ内容を勉強して成果を出すことは、かなり難しいと思います。しかし、本研究会に所属すれば、運動部での練習のように、先輩・同期と一緒に努力することで達成が可能になります。本研究会において、これらの課題に正面から取り組み、自分を鍛えれば、卒業後、自分が納得しうる就職ができると思います。本研究会の卒業生からは、「人生を変えたゼミ」と評価して頂いています。本研究会の卒業生は、現在、世界5カ国に駐在して活躍しています。元気と意欲のある方の応募を期待しています。						
授業外で行うべき学習活動(準備学習等)			成績評価基準			
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をして下さい。ゼミでの発表準備、ラジオビジネス英語の暗誦等のサブゼミ課題をこなし、英検準1級等の資格取得のための勉強を行って下さい。			平常点のみです(100%)。春学期・秋学期とも、3回以上欠席したり、発表準備・課題を行ってこなかったりした場合には、単位をあげることはできません。			
募集にあたってのお知らせ(選抜方法・その他)						
募集対象学年	新2年生					
新2年生(現1年生)を募集します。募集人数は、この2限のゼミで8名前後です。2限と4限のゼミの内容は同じですので、いずれかを希望して下さい。応募は、Hoppiiで[2025年度応募用]研究会Aで、2限と4限の両方を受け付けます。選考は、応募者に対して4年生数名が主体となって対面で面接します。自己紹介と志望理由について、合計3分でスピーチしてください。面接の日時・場所については、課題(志望書)を提出された方に対して、メールでお知らせいたします。						
オープンゼミ・説明会						
オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ・説明会の情報詳細は				
説明会開催有無	無	学習支援システムに仮登録して確認してください。				
備考						



# 2025 年度研究会募集要項

研究会Aを新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会Aを継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

<b>A</b>		学習支援システム応募用授業コード			<b>AA0453</b>	
テーマ	外国企業の英文 CSR 報告書を読む					
担当者	永野秀雄	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	火曜日 4 限	
関連するコース	サステナブル経済・経営コース グローバル・サステナビリティコース					
授業の到達目標			授業のテーマ			
このゼミナールは、①4 年生で必修となる研究会修了論文を書く力をつけること、②文献読解を中心とした英語力を身につけること、③日米の環境法の基本を学ぶことを目標としています。このほか、基礎力を固めるために、①ラジオビジネス英語の暗誦、②Japan Times 1 面の訳を毎回の課題としています。また、通常のゼミナールでの学習に加え、基礎情報技術者試験、水質関係第 1 種公害防止管理者試験、英検準 1 級、及び TOEIC 800 点以上の取得を目標としています。			この研究会は、環境監査法務の基本を学ぶものです。2025 年度は、英文で書かれた外国企業の CSR 報告書又はサステナビリティ報告書を学習します。			
授業の進め方						
ゼミ生が班を編成して、班ごとの発表が行われます。合宿(又は大学でのゼミ)は、春・夏の 2 回で、ディベートとスピーチ訓練、および、4 年生による研究論文の発表が行われます。						
学生の皆さんへのメッセージ						
この研究会で勉強する内容は、質・量とも、かなりのものがあります。自分1人で同じ内容を勉強して成果を出すことは、かなり難しいと思います。しかし、本研究会に所属すれば、運動部での練習のように、先輩・同期と一緒に努力することで達成が可能になります。本研究会において、これらの課題に正面から取り組み、自分を鍛えれば、卒業後、自分が納得しうる就職ができると思います。本研究会の卒業生からは、「人生を変えたゼミ」と評価して頂いています。本研究会の卒業生は、現在、世界 5 カ国に駐在して活躍しています。元気と意欲のある方の応募を期待しています。						
授業外で行うべき学習活動(準備学習等)			成績評価基準			
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をして下さい。ゼミでの発表準備、ラジオビジネス英語の暗誦等のサブゼミ課題をこなし、英検準 1 級等の資格取得のための勉強を行ってください。			平常点のみです(100%)。春学期・秋学期とも、3 回以上欠席したり、発表準備・課題を行ってこなかったりした場合には、単位をあげることはできません。			
募集にあたってのお知らせ(選抜方法・その他)						
募集対象学年	新2年生					
新2年生(現1年生)を募集します。募集人数は、この 4 限のゼミで 8 名前後です。4 限と 2 限のゼミの内容は同じですので、いずれかを希望して下さい。応募は、Hoppii で[2025 年度応募用]研究会 A で、4 限と 2 限の両方を受け付けます。選考は、応募者に対して4年生数名が主体となって対面で面接します。自己紹介と志望理由について、合計3分でスピーチしてください。面接の日時・場所については、課題(志望書)を提出された方に対して、メールでお知らせいたします。						
オープンゼミ・説明会						
オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ・説明会の情報詳細は 学習支援システムに仮登録して確認してください。				
説明会開催有無	無					
備考						

# 2025 年度研究会募集要項

研究会Aを新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会Aを継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A		学習支援システム応募用授業コード			AA0454	
テーマ	「人と自然の関わり」で描く日本史					
担当者	芳賀 和樹	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	月曜日 4限	
関連するコース	ローカル・サステイナビリティコース 人間文化コース					
授業の到達目標			授業のテーマ			
1) 歴史用語の意味や使い方、歴史資料の読み解き方を、具体的な事例に基づいて説明できるようにすること 2) 自ら「問い」を立て、適切な方法を用いて調査・分析し、各自の「答え」を導き出す力を養うこと 3) 多様な意見を尊重しながら建設的に議論する力を養うこと			この研究会では、 <u>日本の歴史を「人と自然の関わり」から読み解きます</u> 。参加者が自ら「問い」を立て、歴史学などの方法を用いて各自の「答え」を導き出し、共に議論する時間を大切にしたいと思います。 <u>具体的なテーマは、ゼミのなかで相談しながら決定</u> します。			
授業の進め方						
①春学期前半： <u>文献の輪読と発表</u> （入門書などを分担して読み込み、その内容や論点を互いに紹介します） ②春学期後半： <u>グループワークによる調査と発表1</u> （グループごとに「問い」を立て、調査・分析し、発表します） ③夏休み： <u>フィールドワーク</u> （各自が「問い」を立て、関連するフィールドに出掛けます） ④秋学期前半： <u>個人による調査と発表</u> （フィールドワークと文献調査などに基づき、各自の「答え」を発表します） ⑤秋学期後半： <u>グループワークによる調査と発表2</u> （グループごとに「問い」を立て、調査・分析し、発表します）						
学生の皆さんへのメッセージ						
日常生活や大学での学びのなかで、ふっと浮かんだ疑問や発見を、ぜひ大切にしてください。そして多様な意見を聞き、活発で建設的な議論をしましょう。疑問や発見をコツコツと積み重ねていくと、きっと新しい景色が見えてくるはずです。皆さんも、「人と自然の関わり」を軸に日本史を描いてみませんか。 下記はテーマの例です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで人は、どのように「自然資源」を活用し、暮らしてきたのだろうか？</li> <li>・これまで人は、どのように「自然災害」に向き合ってきたのだろうか？</li> <li>・「人と自然の関わり」のなかで、どのような「文化」が創り出されてきたのだろうか？</li> </ul>						
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）			成績評価基準			
・発表の準備（データの収集と整理、レジュメの作成など） ・自身の問題関心に意識を向け、関連する文献などを積極的に集め、読み解いてください ・可能な範囲でフィールドワーク（地域の博物館や図書館などを訪れることも含む）に出かけてみてください			平常点、発表、質疑・討論などを総合的に評価します。			
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）						
募集対象学年	新2・3年生					
参加希望者は、志望調査票に下記の【1】【2】を <b>できるだけ具体的に記入</b> して提出してください。調査票の内容に基づいて面接を実施します。面接の実施方法や日時などについては、学習支援システムの「お知らせ」で配信します。 【1】この研究会を志望する理由（この研究会をどのように活用したいか） 【2】関心のあるテーマとその理由						
オープンゼミ・説明会						
オープンゼミ開催有無	有	下記日程でオープンゼミを開催します。そのなかで簡単な説明会を実施します。 ・10月28日(月)4限 ←1日目は現メンバーの発表があるので、おすすめです ・11月11日(月)4限 詳細は学習支援システムに仮登録して確認してください。				
説明会開催有無	有					
備考						
10/24(木)午後の研究会個別相談会に参加予定です。詳細は学部 Web サイトを確認してください。						

# 2025 年度研究会募集要項

研究会Aを新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会Aを継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

<b>A</b>		学習支援システム応募用授業コード			<b>AA0455</b>	
テーマ	SDGs 時代に社会から選ばれる企業とは何か					
担当者	長谷川 直哉	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	火曜日 4限	
関連するコース	サステナブル経済・経営コース ローカル・サステナビリティコース					
授業の到達目標			授業のテーマ			
2・3 年生でチーム(4~5 名)を編成し、日経ストックリーグに参加します。春学期は、SDGs に関するグローバルトレンドと企業の関係について学びます。秋学期からは企業訪問などのフィールド調査を行って、サステナビリティ社会で必要とされる企業 20 社を選定しレポートを作成します。			SDGs やパリ協定(脱炭素)の登場によって、企業を取り巻く環境は激変しています。社会人になる前に「良い企業、良い社会、良い働き方」とは何かという問いに対する回答を見出すため、企業と社会の関係性を学びます。			
<b>授業の進め方</b>						
春学期は SDGs や脱炭素を中心に企業と社会をテーマにした文献や論文を購読し、日経ストックリーグでの活動に必要な経営学や金融経済の知識、論理的思考法、ディベート力を養成します。秋学期はチーム毎にサステナビリティ報告書と財務データの分析や企業訪問・外部有識者と面談を行って、上場企業約 3,700 社の中から SDGs 時代にふさわしい企業 20 社を選定しポートフォリオを組成します。A ゼミ(火・4 限)応募者は B ゼミ(火・5 限)にも参加すること勧めます。また、ゼミでの学習やフィールド調査から得た成果をまとめて、学外の論文コンテストや日経ストックリーグに応募します。						
<b>学生の皆さんへのメッセージ</b>						
ゼミの研究成果を基に毎年応募している日経ストックリーグでは最優秀賞&金融大臣賞を受賞し、2011 年のゼミ創設以来 12 年連続入選(入選率約4%)を果しました。日経ストックリーグの成果をさらに発展させて応募する住友理工(株)小論文コンテストでは、最優秀賞(賞金 100 万円)をはじめ毎年入賞しています。このゼミでは 3 年間しっかり学び、①知識を習得するだけでなく、未知の問いに対する答えを追求しようというチャレンジ精神のある人、②社会に通用する人間力[意欲×能力×コミュニケーション力×人柄×健康]を養成したい人を歓迎します。						
授業外で行うべき学習活動(準備学習等)			成績評価基準			
企業訪問調査やサブゼミ(火・3 限)をゼミ以外の時間帯に実施します。夏休みにゼミ合宿(奄美大島または北海道)を行います。			成績評価は加点主義で、平常点(研究会活動への貢献度)、日経ストックリーグレポート、外部論文コンテスト、卒業論文等に対する取り組み姿勢を総合的に評価します。			
<b>募集にあたってのお知らせ(選抜方法・その他)</b>						
募集対象学年	新 2 年生					
<ul style="list-style-type: none"> <li>志望調査票に記載された志望動機と面接(対面またはオンライン)による選考を行います。</li> <li>新 2・3 年生は日経ストックリーグへの参加、新 4 年生は研究会修了論文の作成を必須とします。</li> <li>A ゼミ希望者は B ゼミにも参加することを勧めます。(B ゼミにも別途志望調査票を提出して下さい。)</li> <li>応募者本人に直接面接の連絡をしますので、志望調査票には必ず連絡の取れるメールアドレスを記載してください。</li> <li>合格者は「現代企業論」「ビジネスヒストリー」「CSR 論 I」「CSR 論 II」を必ず履修して下さい。</li> </ul>						
<b>オープンゼミ・説明会</b>						
オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ・説明会の情報詳細は学習支援システムに仮登録して確認してください。(オープンゼミ開催予定日 10/22、10/29、11/5)				
説明会開催有無	有					
<b>備考</b>						

# 2025 年度研究会募集要項

研究会Aを新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会Aを継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A		学習支援システム応募用授業コード			AA0456	
テーマ	名勝・詩跡および都市について考える					
担当者	日原 傳	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	木曜日 4 限	
関連するコース	人間文化コース ・ ローカル・サステナビリティコース					
授業の到達目標			授業のテーマ			
・名勝、詩跡および都市の成立の経緯について理解を深める。 ・近代以前の旅の実態について理解を深める。 ・名勝、詩跡の成立に関わった文学、絵画などの存在を知る。			・名勝、詩跡および都市の成立の経緯を探り、その自然や歴史との関わりについて考察する。 ・名勝、詩跡の成立に関して、文学や絵画などの果たした役割を考える。			
授業の進め方						
・最初の時間に、本年度用いる基本テキストについて説明します。以後は、テキストを輪読してゆきます。 ・春学期は江戸時代に書かれた紀行文を読む予定です。影印本と活字資料を活用し、「変体仮名」を読む訓練をします。 ・秋学期は江戸・東京という都市の成立に関する文献を読む予定です。 ・各自が自分の興味のあるテーマについて調べ、発表する時間も設けたいと思います。						
学生の皆さんへのメッセージ						
過去には以下のようなテキストを読みました。こういった方面に興味のある学生の参加を歓迎します。 松尾芭蕉『おくの細道』『野ざらし紀行』、鈴木理生『江戸はこうして造られた』（ちくま学芸文庫）、 久保田淳『隅田川の文学』（岩波新書）、陣内秀信『東京の空間人類学』（ちくま学芸文庫）、 和田茂樹編『漱石・子規往復書簡集』（岩波文庫）、復本一郎編『子規紀行文集』（岩波文庫）、 柴田宵曲『子規居士の周囲』（岩波文庫）、足利健亮『地図から読む歴史』（講談社学術文庫）						
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）			成績評価基準			
・次回読む文献を下読みし、分からない言葉・事項は辞書を引いて調べておく。 ・最終レポートを提出する。			平常点(授業への参加態度、発表内容)80% 最終レポート20%			
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）						
募集対象学年	新2～4 年生					
・志望者が多く選抜が必要な場合は「志望調査票」によって選抜します。 ・Bゼミとの掛け持ちを認めます。						
オープンゼミ・説明会						
オープンゼミ開催有無	無	期日を決めてのオープンゼミ・説明会は行ないません。質問のある人は担当者に				
説明会開催有無	無	メール(アドレスは履修の手引き参照)等で連絡してください。個別に対応します。				
備考						



# 2025 年度研究会募集要項

研究会Aを新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会Aを継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A		学習支援システム応募用授業コード			AA0457	
テーマ	地域の文化を考える					
担当者	平野井ちえ子	開講期	通年	曜日時限	木曜日 4 限	
関連するコース	人間文化コース ローカル・サステナビリティコース					
授業の到達目標			授業のテーマ			
地域に暮らす人々の生活とそれぞれの土地に固有の文化活動との関わりを理解する。基本的な知識と方法論を身につけた後、とくに自信をもって語れる得意ジャンルまたはエリアをもつこと。			地域の文化、主に舞台芸術を切り口として、日本の文化政策・アートマネジメントの現状を考える。舞台作品に関する鑑賞眼を養う。			
授業の進め方						
春学期の前半は、日本の伝統芸能・民俗芸能・現代演劇・前衛的パフォーマンスなどの流れに親しむため、文献や映像資料による講義・ディスカッションを行います。春学期の後半は、受講者各自に自分の選んだ舞台作品の鑑賞レポート作成と発表を求めます。 秋学期は、文化政策や劇場建築の基本書を輪読した後、劇場／芸能の「場」に関する受講者各自のケーススタディを指導します。						
学生の皆さんへのメッセージ						
文化というソフトウェアから地域を考える研究会なので、人文系の学問、とくに舞台芸術・身体表現・比較文化・コミュニケーション・アートフェスティバルなどに関心のある人の参加を期待します。						
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）			成績評価基準			
文献講読の予習（発表者はレジュメまたはパワーポイントの準備） 舞台鑑賞と劇場調査（レポート作成）			参加態度、授業への貢献度、口頭発表、レポートなどから総合的に評価します。口頭発表は、テキスト輪読分とレポート（舞台鑑賞＋劇場調査）分とします。			
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）						
募集対象学年	新2～3年生					
選抜方法は、志望理由書とそれに基づく Zoom 面談です。志望理由書は具体的に書いて下さい。たとえば、下記の内容を盛り込むとわかりやすいです。①芸術のどのようなジャンル／作品／アーティストに興味があるか（これまでの鑑賞経験も含む）②芸術の場として、どのような劇場／地域に興味があるか ③文化政策・アートマネジメント・フィールドワークに関する資料を読んだことがあれば、その著者名／資料名など。						
オープンゼミ・説明会						
オープンゼミ開催有無	無	本研究会に興味のある方は、学習支援システムに仮登録して情報を確認して下さい。また、質問のある方は学習支援システム「お知らせ」欄に記載の教員メールアドレスまでご連絡下さい。				
説明会開催有無	無					
備考						
個別相談会(10/24)は、16:30-17:00 のみ参加します。						

# 2025 年度研究会募集要項

研究会Aを新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会Aを継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A		学習支援システム応募用授業コード			AA0458	
テーマ	環境本を読む					
担当者	藤倉 良	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	金曜日 3限	
関連するコース	全てのコース(主に RSP 生用)					
授業の到達目標			授業のテーマ			
環境などに関係する書籍を多数読むことで読書力を養うとともに、環境に関する基礎知識を広げ、4年生の12月までに卒業論文を書きます。			なるべく多くの本を読みます。			
授業の進め方						
指定された本を読み、プレゼンテーションと議論をしてもらいます。そのうえで書評や感想文、エッセイなどを期日までに授業支援システムに提出します。書籍は各自が購入するか図書館から借りるかなどして、自力で調達してください。 これと並行して、各自の体験などを基本にして関心を有する研究テーマを決め、それについて卒業論文を書くことを目指します。毎回の授業では、交代で研究の進捗状況を報告し、情報交換しながらメンバー間で議論します。						
学生の皆さんへのメッセージ						
読書には1冊の本をじっくり読む精読と、多くの本をどんどん読み進める多読とがあります。本研究会では読書する機会が少ない人に後者を実践してもらうための場であり、幅広い知識を習得する機会でもあります。また、一万字を超えるまとまった文章を書く機会はそうありません。容易ではない知的格闘技ですが、完成したときの達成感は貴重な経験になります。 飲み会や小旅行などの実施はゼミ生のイニシアチブで実施してください。私も予定が合う限り参加します。						
授業外で行うべき学習活動(準備学習等)			成績評価基準			
指定された本を読み、書評を書くことにあります。			提出された書評の本数と授業への参加によって評価します。			
募集にあたってのお知らせ(選抜方法・その他)						
募集対象学年	制限はありません。					
志望者は、これまでに読んだ本の中から一冊を選び、タイトルと著者名の後に何が書かれていて、どのように感じたかを1000字以上で記述して11月17日までにHoppiiの課題のページに提出してください。ファイルはワードファイルかPDFで、ファイル名は氏名だけとしてください。なお、提出文の返却はしません。						
オープンゼミ・説明会						
オープンゼミ開催有無	無					
説明会開催有無	無					
備考						
担当教員(藤倉)は2025年度末で退職しますので、2026年度以降の開講はなく、後任教員へのゼミ引継ぎもないことに留意してください。						

# 2025 年度研究会募集要項

研究会Aを新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会Aを継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A		学習支援システム応募用授業コード			AA0459	
テーマ	環境問題解決に向けた市民の活動と行政、企業との連携					
担当者	藤田 研二郎	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	木曜日 3 限	
関連するコース	ローカル・サステナビリティコース      サステナブル経済・経営コース					
授業の到達目標			授業のテーマ			
具体的な環境問題解決の取組みについて、2 年生は <u>グループでの研究</u> 、3 年生以降は <u>個人での研究</u> （主にケーススタディ）を行います。4 年生時には、 <u>卒業論文</u> を執筆することを目指します。			NGO・NPO、ボランティアをはじめ <u>市民の組織による自発的な活動</u> や、 <u>行政、企業との連携</u> について、具体的な組織の取組みやよりよい連携のあり方を検討しながら、環境問題の解決に向けた課題を学びます。			
授業の進め方						
(2 年生) フィールドワークを中心に、その事前・事後学習からなるグループでの研究を行います。また、 <u>環境社会学や NPO 論、社会的企業論</u> などの教科書的な文献をレビューし、基礎的な知識を身につけます。						
(3、4 年生) 2 年生のグループ研究をサポートしつつ、事例・文献の探索の仕方など <u>ケーススタディ</u> の方法を学び、個人での研究を行います。4 年生は研究発表を通じて個人の研究テーマを深め、卒論の執筆を目指します。						
※2024 年度は、NPO が企業と連携して取り組む外来種対策の事例（千葉県我孫子市）のフィールドワークに行きました。今後は事例を増やし、またゼミ合宿なども企画していく予定です。						
学生の皆さんへのメッセージ						
日頃から、ディスカッションや共同でのスライドの作成など、 <u>グループワーク</u> を行います。ゼミのメンバーと積極的にコミュニケーションをとり、主体的にゼミの運営に参加してください。						
2023 年度に開講した、まだ歴史の浅いゼミです。みなさんと一緒にゼミをつくっていただければと思います。						
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）			成績評価基準			
● 環境問題のニュースに関心をもって、日常的に情報収集を行う ● 対象の文献をしっかりと読む、発表の準備を行う			平常点、グループワーク、フィールドワーク、文献発表、研究発表、課題の提出などを総合的に評価します。			
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）						
募集対象学年	新 2、3 年生      合計 10 人程度					
志望調査票に、次の①②を <u>できるだけ具体的に記入</u> し、提出してください。調査票の内容にもとづき、適宜面接を行います。						
① このゼミを志望する理由      ※ <u>第一志望</u> の場合はその旨を記載してください						
② 現在関心のある研究テーマ・具体的な事例						
オープンゼミ・説明会						
オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ・説明会の情報詳細は				
説明会開催有無	有	学習支援システムに仮登録して確認してください。				
備考						
10/24（木）の研究会個別相談会に参加予定です。現役のゼミ生から話を聞けるとと思います。						
また <u>11/7、14（木）4 限・F303 教室</u> にて、オープンゼミ（ゼミの説明や 2 年生の研究発表など）を行います。詳細は後日、Hoppii で連絡します。						

# 2025 年度研究会募集要項

研究会Aを新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会Aを継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A		学習支援システム応募用授業コード			AA0460	
テーマ	地域産業における国際比較					
担当者	松本敦則	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	火曜日 5 限	
関連するコース	サステイナブル経済・経営コース グローバル・サステイナビリティコース					
授業の到達目標			授業のテーマ			
地域産業の基本的な理論や仕組みを理解する。さらにそれ踏まえたうえで、実践的な研究・活動ができるスキルを取得することを目的とする。			主に産業集積(Industrial district)という観点から日本とイタリア、スイス、ドイツ等との比較研究を行いたい。その他、関連する地域の中小企業、地域金融、地域産業政策、観光分野も扱っていきたい。			
授業の進め方						
毎回担当者を決めて基本的な文献を輪読し、発表してもらう。その他、フィールドワークやゲスト講師の講義も検討していく。また、受講生は本研究会を通して各自の研究テーマを設定し、自ら研究を進めその発表会も行う予定である。						
学生の皆さんへのメッセージ						
本研究会では地域産業が抱える課題の解決を主眼とし、歴史的経緯、現状分析などの理論的理解を進める。さらに、実践知を高めるために、ある地域の事例についてグループワークを行うことを考えている。現時点では栗栽培や焼き物の産地の茨城県笠間市を考えているが、変更の可能性もある。国際比較の対象国としてはイタリアをはじめとする欧州を中心に考えている。広く国際的な視点を踏まえ地域産業に関心のある学生の参加を望む。						
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）			成績評価基準			
地域産業に関する文献、新聞、雑誌、ニュースに関心を持ち、常に国際的、多面的な視点から最新の情報を得る努力をすること。			毎回の出席、ゼミへの貢献、レポート提出を基準に総合的に判断する。			
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）						
募集対象学年	新2年生					
自己紹介文、志望理由書と面接を行い決定する。面接日程等の詳細は学習支援システムをご覧ください。						
オープンゼミ・説明会						
オープンゼミ開催有無	無	オープンゼミ・説明会の情報詳細は学習支援システムに仮登録して確認してください。				
説明会開催有無	有					
備考						



# 2025 年度研究会募集要項

研究会Aを新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会Aを継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A		学習支援システム応募用授業コード			AA0461	
テーマ	地球温暖化とその周辺					
担当者	松本倫明	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	火曜日 5限	
関連するコース	ローカル・サステナビリティコース 環境サイエンスコース					
授業の到達目標			授業のテーマ			
地球温暖化とその周辺について理解を深めます。そのために、事実やデータにもとづいて客観的に定量的に解析し、考察する力をつけます。また環境に関する幅広い知見も得ます。			地球温暖化をキーワードに幅広いテーマを扱います。最近の全体テーマは「水素エネルギーの未来」、「シン SDGs」、「カーボンニュートラル」、「プラスチック資源循環とレジ袋有料化」でした。			
授業の進め方						
「グループワーク」(春学期)…特定のテーマについてグループで研究します。環境に関するイベントを視察するなどの学外調査や、文献に基づいた研究なども行います。 「環境速報」(通年)…環境に関するニュースをレポーターが発表し、みんなで考えます。環境に関する幅広い知見を得ることが目的です。 「研究報告」(後期)…個人の研究の進捗状況を発表し、議論します。 「報告書」(年度末)…1年間の成果をまとめた報告書を提出します。4年生は研究会修了論文を提出します。 「その他」必要に応じてサブゼミを火曜6限に行います。学期中には親睦会、夏休みには合宿も行います。						
学生の皆さんへのメッセージ						
ゼミの運営はゼミ生を尊重します。やりたいことなど、いろいろな意見を提案してください。 研究テーマの選択についてもゼミ生の意向を尊重します。 ゼミ活動をInstagramで発信しています！ <a href="https://www.instagram.com/matsumoto.semi.hosei/">https://www.instagram.com/matsumoto.semi.hosei/</a>						
授業外で行うべき学習活動(準備学習等)			成績評価基準			
環境速報・グループ発表、研究報告などのレポーターにあたった場合には、発表の準備をしてください。学外で調査を実施することがあります。			ゼミへの参加姿勢、発表と議論の姿勢、年度末報告書にもとづき総合的に判断します。			
募集にあたってのお知らせ(選抜方法・その他)						
募集対象学年	新2年生・新3年生					
志望理由書と面接にもとづき選抜します。面接には現ゼミ生が同席する場合があります。面接日程等の詳細は学習支援システムをご覧ください。						
オープンゼミ・説明会						
オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ・説明会の情報詳細は				
説明会開催有無	有	学習支援システムに仮登録して確認してください。				
備考						

# 2025 年度研究会募集要項

研究会Aを新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会Aを継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A		学習支援システム応募用授業コード			AA0462	
テーマ	21世紀を健康に生きるために					
担当者	宮川 路子	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	月曜日 3限	
関連するコース	ローカル・サステイナビリティコース 環境サイエンスコース					
授業の到達目標			授業のテーマ			
<p>テーマは学生により異なるが、担当する学生は、毎回発表において問題提起を行う。いかに的確な問題提起を行うかは研究テーマへの深い理解を必要とする。参加学生全員による積極的なディスカッションを通じてテーマの理解を深めることを目的としている。また、学生はプレゼンテーションについてのスキル(文献収集や調査、わかりやすいレジュメの作成、パワーポイントの作成、人前での発表、適切な問題提起と他の学生の意見を交えての最終的なコメント提供など)を磨き、グループディスカッションを通じて、議事進行、意見のまとめと発表、発言力、ディスカッション能力、コミュニケーション力を身につけることが可能となる。職場における最大のストレス要因である人間関係を円滑に保つことができる能力を取得する。</p>			<p>ストレスに満ち溢れた現代社会においては、自殺者の数が1998年から14年連続で3万人を超えていた。現在は減少傾向にあり、2万人程度となっているものの、メンタル面での障害を抱えながら生きている人の数は非常に多い。就労形態の多様化、過重労働、ワークライフバランスの問題など、就労環境におけるストレスも移り変わりながら増加している。私たちが肉体的、精神的に健康に生きていくためにはさまざまな障壁がある。さらに、めまぐるしく移り変わる医療をめぐる環境においては、氾濫する情報を的確に取捨選択して自己の健康管理を行っていくことが求められる。学生が将来社会に出て、働きながら健康を維持し、健康寿命を延長して長寿をめざすための知識を得ることを目的としている。</p>			
授業の進め方						
<p>本研究会では、健康、医療、生命倫理関連のテーマについて幅広く焦点を当て、学生の自主的なテーマの選択、調査研究により発表を行う。1年に2回の発表であるが、同じテーマについて掘り下げて研究し、より完成度の高い調査発表を行い、最終的に卒論としてまとめることを目標にしている。少人数制のゼミであり、通常の講義では難しい細やかな学習により学生の能力を高める。</p>						
学生の皆さんへのメッセージ						
一緒に楽しく学べる方、意欲のある方を募集します。						
授業外で行うべき学習活動(準備学習等)			成績評価基準			
日頃から健康関連のニュースに関心を持ち、新聞を読むこと。気になるテーマがあれば、さらに関連図書を読むこと。そして、自分自身の意見を持てるようによく考えること。			春学期、秋学期にそれぞれ一回ずつの発表を行います。その際のレジュメ、発表内容、参加意欲および参加態度により評価を行います。			
募集にあたってのお知らせ(選抜方法・その他)						
募集対象学年	主として新2年生、新3年生(若干名)					
<p>現役のゼミ生は継続履修するため、空き定員のみ募集となります。そのため、新2年生の募集が主となります。志望理由をしっかりと記してください。応募人数が多い場合には、面接を行います。面接日時の発表から面接までの時間が短いので志望者は掲示板を注意して確認するようにお願いします。</p>						
オープンゼミ・説明会						
オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ・説明会の情報詳細は学習支援システムに仮登録して確認してください。				
説明会開催有無	有					
備考						

# 2025 年度研究会募集要項

研究会Aを新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会Aを継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A		学習支援システム応募用授業コード			AA0463	
テーマ	21世紀を健康に生きるために					
担当者	宮川 路子	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	月曜日 4限	
関連するコース	ローカル・サステイナビリティコース 環境サイエンスコース					
授業の到達目標			授業のテーマ			
<p>テーマは学生により異なるが、担当する学生は、毎回発表において問題提起を行う。いかに的確な問題提起を行うかは研究テーマへの深い理解を必要とする。参加学生全員による積極的なディスカッションを通じてテーマの理解を深めることを目的としている。また、学生はプレゼンテーションについてのスキル(文献収集や調査、わかりやすいレジユメの作成、パワーポイントの作成、人前での発表、適切な問題提起と他の学生の意見を交えての最終的なコメント提供など)を磨き、グループディスカッションを通じて、議事進行、意見のまとめと発表、発言力、ディスカッション能力、コミュニケーション力を身につけることが可能となる。職場における最大のストレス要因である人間関係を円滑に保つことができる能力を取得する。</p>			<p>ストレスに満ち溢れた現代社会においては、自殺者の数が1998年から14年連続で3万人を超えていた。現在は減少傾向にあり、2万人程度となっているものの、メンタル面での障害を抱えながら生きている人の数は非常に多い。就労形態の多様化、過重労働、ワークライフバランスの問題など、就労環境におけるストレスも移り変わりながら増加している。私たちが肉体的、精神的に健康に生きていくためにはさまざまな障壁がある。さらに、めまぐるしく移り変わる医療をめぐる環境においては、氾濫する情報を的確に取捨選択して自己の健康管理を行っていくことが求められる。学生が将来社会に出て、働きながら健康を維持し、健康寿命を延長して長寿をめざすための知識を得ることを目的としている。</p>			
授業の進め方						
<p>本研究会では、健康、医療、生命倫理関連のテーマについて幅広く焦点を当て、学生の自主的なテーマの選択、調査研究により発表を行う。1年に2回の発表であるが、同じテーマについて掘り下げて研究し、より完成度の高い調査発表を行い、最終的に卒論としてまとめることを目標にしている。少人数制のゼミであり、通常の講義では難しい細やかな学習により学生の能力を高める。</p>						
学生の皆さんへのメッセージ						
一緒に楽しく学べる方、意欲のある方を募集します。						
授業外で行うべき学習活動(準備学習等)			成績評価基準			
日頃から健康関連のニュースに関心を持ち、新聞を読むこと。気になるテーマがあれば、さらに関連図書を読むこと。そして、自分自身の意見を持てるようによく考えること。			春学期、秋学期にそれぞれ一回ずつの発表を行います。その際のレジユメ、発表内容、参加意欲および参加態度により評価を行います。			
募集にあたってのお知らせ(選抜方法・その他)						
募集対象学年	主として新2年生、新3年生(若干名)					
<p>現役のゼミ生は継続履修するため、空き定員のみでの募集となります。そのため、新2年生の募集が主となります。志望理由をしっかりと記してください。応募人数が多い場合には、面接を行います。面接日時の発表から面接までの時間が短いので志望者は掲示板を注意して確認するようにお願いします。</p>						
オープンゼミ・説明会						
オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ・説明会の情報詳細は				
説明会開催有無	有	学習支援システムに仮登録して確認してください。				
備考						

# 2025 年度研究会募集要項

研究会Aを新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会Aを継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。


A		学習支援システム応募用授業コード			AA0464	
テーマ	多様な人材が能力を活かせる雇用社会					
担当者	山田 久	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	木曜日5限	
関連するコース	サステイナブル経済・経営コース					
授業の到達目標			授業のテーマ			
労働問題をテーマに経済社会や企業、組織の在り方を考察・議論することを通じ、課題発見力・論理的思考力・対話力の涵養を目標にします。加えて学生の皆さんが社会に出て、個性を活かしながら組織で活躍していくのに有益な、考え方や視野を身に着けることを目指します。			人口減少が進み、企業や組織の人材不足は深刻になっています。一方で、世界情勢の複雑化や様々な社会課題・経営課題に対処するため、個人個人の能力向上が求められる時代が到来しています。多様な人々が能力を伸ばして生き生き働ける社会や組織の在り方を考えます。			
授業の進め方						
以下を想定していますが、ゼミ生の皆さんの意向も聞きながら決めていきたいと思えます。 【春学期】ゼミ生の皆さんの関心に合わせつつ、労働経済学や人的資源管理論、労働経済白書などの教科書的な文献を輪読し、基礎的な知識を身につけます。 【秋学期】ゼミ生それぞれがテーマを設定し、事例・文献の探索の仕方、統計処理の方法などを学びながら、レポート作成を行います。						
学生の皆さんへのメッセージ						
2025 年度から学部のゼミを担当します。民間企業で長く働いた経験を活かし、ゼミ生の皆さんが充実した社会人生活を送るために資する物の見方・考え方をお伝えできればと思っています。ゼミ生同士が切磋琢磨し、皆さんがバランスのとれた見方と多様な意見を尊重できる姿勢を身に着けられる場になればと考えています。本ゼミの他に、社会人大学院(イノベーション・マネジメント研究科)のゼミも担当しています。そちらでは、社会人学生が、実社会の経験に根差した具体的な社会・経営課題に関するテーマを設定し、その解決策を提案しています。ゼミ生の皆さんと社会人学生の方々との交流機会を設ければと考えています。						
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）			成績評価基準			
自分で調べるテーマを決め、資料を集めたり関連図書を読み込んでいただきます。新聞やニュースを継続してチェックし、世の中の動きをフォローするよう心がけてください。			ゼミ参加への積極度、発表やレポートなどを総合的に判断して評価します。			
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）						
募集対象学年	新2年生					
5～6名を目途に考えています。①書類と②面接で選考します。参加希望者は Hoppii に仮登録したうえで、「研究会志望調査票」と「研究会志望アンケート」を記入し、アップロードしてください。書類選考を通過された方に追って面接の日時・場所を連絡します。						
オープンゼミ・説明会						
オープンゼミ開催有無	無	説明会・相談会の情報詳細は学習支援システムに仮登録して確認してください。				
説明会開催有無	有					
備考						



# 2025 年度研究会募集要項

研究会Aを新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会Aを継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A		学習支援システム応募用授業コード			AA0465	
テーマ	「地域の経済」を考える					
担当者	湯澤 規子	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	火曜日 3限	
関連するコース	サステイナブル経済・経営コース			ローカル・サステイナビリティコース		
授業の到達目標				授業のテーマ		
①自らの「問い」を立て ②主体的に調べ（フィールドワークや資料収集・分析） ③リサーチペーパーor ポスターの作成（2,3年生） ④卒業論文の作成（4年生）				この研究会では「地域の経済」を様々な視点から考えます。日常生活の中にある身近なことを出発点とし、課題を見つけ、それを広い視野から議論していきます。		
授業の進め方						
Step1: 「地域の経済」に関する文献の精読とグループ報告 Step2: ミニフィールドワーク（現地に行くことが難しい場合は、様々な工夫やアイデアで実施する） Step3: 春学期前半に取り組んだ文献講読などをもとに、グループごとに「問い」を立て、調査計画を作成 Step4: グループごとの調査報告（2,3年生） Step5: 個人テーマの決定と調査計画の作成（4年生）						
学生の皆さんへのメッセージ						
◆どんな小さなことでも、自分自身の問題意識や好奇心にもとづいた「問い」を立ててみてください。 ◆その「問い」を頭の片隅に置きながら日々を過ごすと、今まで見えなかったものが見えたり、気にならなかったものが気になったりしてきます。 ◆その「発見」、「違和感」、「経験」を自分以外の誰かに伝え、一緒に考える場が研究会です。 ◆侃侃諤諤（かんかんがくがく）、伸び伸びとした「共考」の場にしていきましょう。						
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）				成績評価基準		
・興味関心に関わる情報を様々な視点から集める（文献、地図、写真、映画、小説、現地調査・・・） ・発表の準備（データの整理、レジュメの作成など） ・研究テーマにかかわる様々な体験をする				研究会への参加、発表、質疑応答、討論などを総合的に評価します。		
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）						
募集対象学年	新2年生を中心に10名程度。新3年生、若干名。					
参加希望者は、①なぜこのゼミを志望しているのか、②受講した中で興味深かった講義とその理由（湯澤の講義以外で）、③「地域」または「食」をテーマにして、研究したいことをできるだけ具体的に、志望調査票に記入して提出してください。文字数は自由ですが、全体の分量が学部指定の志望理由書1枚に収まるように工夫して下さい。調査票の内容にもとづいて面接を実施します。面接の実施方法などについては、学習支援システムの「お知らせ」情報でお知らせします（同じ内容をメールでも配信します）。						
オープンゼミ・説明会						
オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミの時に簡単なゼミ説明を実施します。				
説明会開催有無	有	10月22日、11月5日、12日、（火3限、教室は【Y504】です。情報詳細は学習支援システムに仮登録して確認してください。				
備考						
◆オープンゼミは①13:10～14:10 研究進捗報告（通常ゼミ）、②14:10～14:40（説明会） →①②どちらでも、いずれかでも参加できます。 *詳細は学習支援システムの「お知らせ」を確認してください。						
				Instagram@hosei_yuzawakenkyukai		
				各 SNS の DM にて質問等も受け付けています←		
						

# 2025 年度研究会募集要項

研究会Aを新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会Aを継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A		学習支援システム応募用授業コード			AA0466	
テーマ	地域環境保全論(アメニティマップとナショナルトラスト)					
担当者	吉永 明弘	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	木曜日2限	
関連するコース	ローカル・サステナビリティコース 人間文化コース					
授業の到達目標			授業のテーマ			
(1)アメニティマップを作成する過程で地域を観察・分析する能力を身につける。(2)文献講読を通じて地域環境保全や地域環境問題の知識を身につける。(3)地域環境保全の手法としてのナショナルトラストについて理解を深める。			(1)アメニティマップをつくって地域を観察・分析する。(2)文献を読んで地域環境問題を学び、書評にまとめる。(3)ナショナルトラストについて講義する。			
授業の進め方						
(1)アメニティマップづくり。春学期はまちあるきをしてマップを制作する。秋学期は任意の地域についてポスター発表を行う。 (2)地域環境問題、地域環境保全に関する文献を読み、書評を執筆する。 (3)ナショナルトラストについての講義を随時行う。						
学生の皆さんへのメッセージ						
このゼミのキーワードは「アメニティマップ」と「ナショナルトラスト」の二つです。「アメニティマップ」は、地域環境の保全やまちづくりについて具体的に考えるためのツールです。身近な地域を歩いて、良いところ・悪いところを地図上に表して議論します。「ナショナルトラスト」は地域環境保全に関する有効な手法の一つです。詳しくは講師が説明します。地域環境保全、まちあるき、読書のすべてに興味のある人の参加を求めます。						
授業外で行うべき学習活動(準備学習等)			成績評価基準			
まちあるき、アメニティマップ作り、書評執筆を授業外で行うことが必須である。休日に時間のとれる人が望ましい。			アメニティマップとポスターの作成と発表、書評の執筆によって評価する。			
募集にあたってのお知らせ(選抜方法・その他)						
募集対象学年	新2年生					
Zoomまたは対面で面接を行い決定します。日時などはメールで連絡します。結果もメールでお伝えします。 なお、2025年度は担当者(吉永)がサバティカルで不在のため、別の教員が代わりに担当します。2026年度からは吉永が復帰します。						
オープンゼミ・説明会						
オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ・説明会の情報詳細は 学習支援システムに仮登録して確認してください。				
説明会開催有無	有					
備考						

# 2025 年度研究会募集要項

研究会Aを新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会Aを継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

<b>A</b>		学習支援システム応募用授業コード			AA0468	
テーマ	人間活動と自然・社会(温暖化対策を含めて)					
担当者	渡邊 誠	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	火曜日 5限	
関連するコース	ローカル・サステナビリティコース 環境サイエンスコース					
授業の到達目標			授業のテーマ			
キーワード:千代田区の環境政策、地域連携、温暖化対策、再生可能エネルギー、森林整備、カーボンオフセット、etc. この研究会ではエネルギー、廃棄物、物質循環(リサイクル)、その他の様々な社会的諸課題について政策面を中心に深く考察できる力の修得をめざしています。都市とその他地域との共生メカニズム、連携のありかたなどについて検討します。都市における温暖化対策とその有効性、様々な地域の現状などについて具体的な事例をもとに考察します。自分の意見をしっかりと持ち、説得力のある論理構成とプレゼンテーションができるようになることを目標としています。			人間活動の結果として生起する諸課題の中からテーマを選定し考察します。地球温暖化とその対策についても重要な研究事項になります。エネルギーと廃棄物に関する取り組みについて様々な事例を調べます。現在千代田区で進められている温暖化対策について考察することも主要なテーマです。これには例えば、スマートシティ、コミュニティサイクル、地方との連携による森林整備事業、再生可能エネルギーの利用促進、食品ロスの削減、モビリティ問題などの課題に対する検討も含まれます。このほか、科学技術の特性理解と社会との関連性、その政策などについても考察します。			
授業の進め方						
著書、文献、新聞記事等を読み合わせします。また、様々な Web 情報に触れ現在の社会的課題について考察します。春学期前半は比較的わかりやすいテーマをもとに参加者全員で検討を進めます。これにより基礎事項の確認および研究を遂行するための準備を行います。春学期後半ではグループを定め、設定したテーマについて調査、検討するなど、課題を深く掘り下げます。これにより環境問題の特徴や性質を知り、様々な分野の内容を結びつけながら問題解決へ向けて考えようとするセンスが養われます。秋学期は特に各自の関心事とその研究内容についても報告します。受講生各々が関心事をもつことが重要ですので、テーマについては幅広い内容としたいと考えています。						
学生の皆さんへのメッセージ						
本研究会では文系の立場から社会の持続性という課題を考察します。千代田区の温暖化対策の調査を含めるなど、具体的事例に接することにより、人間活動によって生起する様々な問題の構造やメカニズムについて考察することができるようになることを目的としています。それらを総合化して「人間活動」と「自然」および「社会」との関連性を見つけていきたいと考えています。授業では、そのための中間報告、最終報告なども含まれています。学生時代に、深く掘り下げ、論理的に思考し、多角的な考察にもとづいて判断しようとする感覚などを身につけておくことは皆さんの将来にとって大切な財産となります。本研究会ではこれらの獲得をめざしています。						
授業外で行うべき学習活動(準備学習等)			成績評価基準			
毎回、予習・復習することが必要です。各種資料等の検索や内容把握、報告の準備などを行います。			ゼミ参加の積極性 50%、レポートなどの提出物の充実度 50%とします。			
募集にあたってのお知らせ(選抜方法・その他)						
募集対象学年	新2・3年生					
連絡事項は学習支援システムに掲載しますので、注意して見てみてください。志望の方と Zoom を利用しての簡単な面談を行う予定にしています。						
オープンゼミ・説明会						
オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ・説明会の情報詳細は学習支援システムに仮登録して確認してください。				
説明会開催有無	有					
備考						
オープンゼミおよび募集相談会は、お気軽に参加してください。入退室自由としています。皆さんの参加を歓迎しています。						